

令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

学校法人 中国学園

2022年度中国学園運営基本方針

学長 千葉 喬 三

我が国の長年にわたる政治・経済の劣化は、次世代を担う若者に深刻な閉塞感を与えており、国家の将来に暗い影を落としている。この状況を中長期的かつ基本的に打開するには、若者自身が新たな社会パラダイムを構築する以外にない。

大学・短期大学は社会公器として、このような自覚と能力を備えた新たな人材の育成に貢献しなければならない。本学は、これまでもこの使命を自明とし、さまざまな努力を行ってきた。しかし、現状ではこの社会的責務を果たすのが困難になりつつある。問題は教育力の低下ではなく、ここ十数年間に亘る財政基盤の弱体化にある。容易ではないが、本年度以降一層財政健全化を進める必要がある。

重点課題

1. 基本理念

学園基本理念『自律創世』を単なる教育標語とせず、全教職員の行動規範とする。

2. 教学改革

(1) 自己点検

教育機関の基本的評価はその教育内容についてなされる。本学園においては、すべての学部・学科、全教員が常に「教学の質確保」を意識して教学内容の改善に取り組むことを指向してきた。本年度より、教学改革の基礎として、「学生による授業評価」結果を全教員個人に配布し、学生から指摘された問題点の改善法についての報告を求める。さらに、IRセンターは、教学改革に関する広範囲な課題について問題点を抽出し、必要な改革案を提示する。

(2) 開講科目再検討

学科において、現行開講している全教科目を「資格取得等必修科目」、「高等教育履修教養科目」、「その他科目」の何れかに分類し、存続の要不要を厳選し開講科目の整理を図る。

(3) 学生との意思疎通・情報共有

本学の教務上の特質の一つとして、休・退学者の多さが挙げられる。これには種々の要因が関係するが、その一つとして教員と学生間の意思疎通や情報の共有が十分でないことが考えられる。この事態を改善するため、学生ポートフォリオ・システムの導入を検討する。このことにより、情報の共有と教育効果の見える化を図る。

(4) 就職支援

本学卒業生の就職状況は就職率こそほぼ100%に近いが、学生に多様な職種・職場を斡旋するために主体的な就職先の開拓をする必要がある。このことが入学者の獲得にも資する。

(5) 本学は、今年創立60周年を迎える。通常、周年事業を行う年季ではないが、この機会を用いて、これまで疎遠であった卒業生（同窓会）との連携を深め、オール中国学園意識を醸成する。このことにより、入試・学園生活・就職支援・社会生活支援などの各ステージを有機的に関連させ、一体化した学園ブランドを発信する。

3. 入学生確保

本学はここ数年、慢性的な学生不足が続いている。これまでも種々の対応を行ってきたが、めばしい効果はなく、より抜本的な対策が求められる。このため、入学者の約70%を推薦入学の目途とし、少なくとも半数は推薦入学とし定員確保に資するよう努める。また、全学科とも教員が高等学校に働きかけ学園への理解を促進し入学者の増進を図る。

喫緊の課題としては、設置以来一度も学生の定員確保が出来ていない「国際教養学部」入学者を確保する。高校側から夙に指摘されているのは「国際教養学部」という意味不明の学部名であることから、学部名を「現代教養学部」または「社会教養学部」に変更し、教育内容の見直しを行う。

4. 財政再建

理事会が短・中期の財政再建計画を立て、大学・短大は教学の場において実施する。

1. 学校法人の概要

①教学の理念

「自律創世」

成人として自立し、自分の人生は自らが創ることにより社会の発展に寄与しうる人材を育成することを目指す。

②沿革

1953（昭和 28）年	学校法人平田洋裁学園設立認可、平田洋裁学園設置（岡山市船頭町 12 番地）
1962（昭和 37）年	学校法人平田洋裁学園を学校法人平田学園に改称 中国女子短期大学設置（岡山市船頭町 12 番地）家政科設置
1963（昭和 38）年	家政科第二部増設
1964（昭和 39）年	保育科増設
1965（昭和 40）年	中国女子短期大学を都窪郡吉備町（現岡山市）庭瀬 83 番地に移転 中国女子短期大学を中国短期大学に改称 英文科 音楽科 増設
1966（昭和 41）年	平田洋裁学園を平田デザインスクールに改称
1968（昭和 43）年	専攻科 音楽専攻設置
1977（昭和 52）年	平田デザインスクールを学校法人平田学園から分離 学校法人事務所を岡山市庭瀬 83 番地に移転
1988（昭和 63）年	幼児教育専攻科 英語英文専攻科 増設
1989（平成元）年	学校法人平田学園を学校法人中国短期大学に改称
1990（平成 02）年	家政科廃止認可
1992（平成 04）年	経営情報学科増設
1995（平成 07）年	専攻科音楽専攻 学位授与機構認定
1999（平成 11）年	人間栄養学科設置
2001（平成 13）年	学校法人中国短期大学を学校法人中国学園に改称
2002（平成 14）年	中国学園大学開学 現代生活学部人間栄養学科
2003（平成 15）年	中国短期大学人間栄養学科 募集停止に伴い学科廃止 専攻科英語コミュニケーション専攻 募集停止に伴い廃止
2006（平成 18）年	中国学園大学大学院開設 現代生活学研究科人間栄養学専攻 子ども学部子ども学科開設
2008（平成 20）年	専攻科 幼児教育専攻 廃止
2010（平成 22）年	中国学園大学大学院設置認可 子ども学研究科子ども学専攻 音楽科募集停止届出 中国短期大学平成 21 年度第三者評価、適格と認められる（短期大学基準協会）
2011（平成 23）年	中国学園大学大学院開設 子ども学研究科子ども学専攻 中国学園大学平成 22 年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）
2012（平成 24）年	音楽科廃止
2013（平成 25）年	専攻科音楽専攻廃止 英語コミュニケーション学科募集停止届出
2014（平成 26）年	国際教養学部国際教養学科設置認可
2015（平成 27）年	国際教養学部国際教養学科開設 中国短期大学平成 27 年度第三者評価、適格と認められる（短期大学基準協会） 英語コミュニケーション学科廃止

2016（平成 28）年	中国学園大学平成 28 年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）
2019（平成 31）年	幼保連携型認定こども園 中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園開園（岡山市北区中撫川 351 番地）
2020（令和 2）年	専攻科介護福祉専攻廃止

③設置学校等

学校法人中国学園	理事長：中 島 義 雄
中国学園大学	所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：千 葉 喬 三
中国短期大学	所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：千 葉 喬 三
中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園	所在地：岡山市北区中撫川 351 番地 園 長：勘 藤 まり子(R4. 12. 31 まで) 河 原 智 美(R5. 1. 1 から)

④役員及び教職員に関する情報

					大 学	短期大学	小計	こども園	合 計
役 員	理 事	7 名	教 員	常 勤	50 名	27 名	77 名	24 名	101 名
	評議員	22 名		非常勤	33 名	16 名	49 名	6 名	55 名
	監 事	2 名	職 員	常 勤	35 名			9 名	44 名

※大学教員には、学長、副学長を含む。

※こども園職員には、園長、副園長を含む。

2. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

《大学・短大》

I. 学部・学科の重点的取組

◎中国学園大学

【現代生活学部人間栄養学科】

令和4年度は新型コロナウイルス感染対策をしっかりと講じた上で、従来と同様に近い内容で活動を実施した。昨年度実施予定でコロナウイルス感染拡大により中止となっていた厚生局による管理栄養士養成施設及び栄養士養成施設の指導調査が、10月7日に実施された。調査後に再確認資料の提出が求められたが、最終的には文書により改善報告を求める事項は見受けられなかったとの通知であった。後期は、特に4年生に対する管理栄養士国家試験合格に向けた学習の充実と支援対策、そして入学者数の増加のための支援対策に注力した。

(1) 管理栄養士合格者の増加

管理栄養士国家試験対策授業の管理栄養士演習、管理栄養士専門演習、総合演習の科目のなかで、国家試験への対策をした。また空きコマを利用して、学生には復習を奨励し、管理栄養士国家試験に向けた対策を行った。

・3年生対象の管理栄養士演習Ⅰ、Ⅱにおいて、栄養士実力認定試験問題を基に管理栄養士国家試験に求められる基礎的内容の理解を図るための復習を中心とする授業を実施し、国家試験に対する意識付けならびに国家試験への対策準備を行った。なお、食品学分野は、後期管理栄養士演習Ⅱにおいて、退職した食品学前任担当教員に非常勤講師として授業を行っていただいた。

・4年次前期科目の管理栄養士専門演習において、管理栄養士国家試験に求められる基本的内容の復習及び実践的問題演習等を実施し、理解度の向上及び実践応用力の蓄積を図った。

特に、急な退職により食品学分野の担当教員が不在のため、卒研ゼミのグループによる食品学分野の模試解説を実施し、学生主体の学びを実施した。

・4年次後期の総合演習においては、グループ学修による知識と理解度の向上を図るとともに、1か月に1回のペースで国家試験に準拠した模擬試験を実施し、その解説を行った。また、食品学分野については、国家試験予備校から講師を招聘し、国家試験対策講義を実施した。

以上の対策を講じたが、令和4年度の管理栄養士国家試験合格率は74.2%（管理栄養士養成課程の全国平均合格率87.2%）にとどまった。

(2) 基礎学力の充実

栄養士・管理栄養士養成課程のカリキュラム履修上、必要となる基礎学力の向上を図った。

・基礎学力を充実させるため、1年生の授業において独自テキストを用いた高校までの数学（計算力）の演習を行い、計算力の向上に取り組んだ。

・高等学校での未履修科目であり、管理栄養士養成課程カリキュラムで必要となる化学および生物のリメディアル教育を実施した。

(3) キャリアデザイン教育の充実

管理栄養士の社会における使命および業務についての理解を深め、将来の職業意識を高めるため、社会で実践する管理栄養士を講師に招聘し、講話を通じて意識の高揚を図った。

- ・ファーストイヤーセミナーのなかで、実社会における管理栄養士の使命や業務内容を知り、管理栄養士に対する理解を深め職業意識を高めるため、管理栄養士資格を持つ実務教員の講演を実施した。

- ・栄養セミナーⅡBにおいて、栄養士・管理栄養士として各職域で活躍している卒業生を招き、職域ごとにブースに分かれ、学生が直接卒業生に管理栄養士の業務内容等のインタビューを行った。またインタビューを実施するにあたり、事前にコミュニケーション力やマナー等社会への対応ができる力の醸成を図った。

(4) 家庭と連携した学生支援

学生、保護者、教員による三者面談や学科別懇談会を通じて、大学における学業や就職活動に対する理解を保護者に深めていただく取組を行った。

- ・3年生の学生と保護者を対象に、臨地実習、就職活動、卒業要件、国家試験についての説明会を7月に実施した。コロナ禍の状況のため Zoom で行い、3年次後期からの上記の内容や、就職支援部からの就職に関する最新情報を共有した。併せて希望者との三者面談を実施した。

- ・2年生においては、希望する学生と保護者を対象に2年生担任教員とで三者面談を行い、日頃の授業や学生生活における質問、臨地実習や就職活動に関する質問などに対して回答し、本学科と学生・保護者の相互理解を図った。

(5) 地域連携活動による学生の経験値の向上

県内企業・団体等と連携し、食品開発やレシピ開発を実施しながら、学生生活の充実を図った。

- ・栄養セミナーⅢの授業の一環として、岡山市保健所、JA 全農おかやま、吉備公民館におけるボランティア団体、吉備学区の NPO 団体と連携し、レシピ開発、健康推進啓発活動を実施した。

- ・栄養セミナーⅣ（卒業研究）の一部のゼミでは、地域団体と協働しながら連携活動を行い、その成果等を実践研究として卒論にまとめた。

(6) 学生募集の強化

オープンキャンパスや入試説明会等の機会を有効に活用し、学部の特徴を積極的に広報し周知を図った。

- ・オープンキャンパスや入試説明会等の機会を有効に活用し、入試広報部と連携しながら、管理栄養士養成課程での学修内容および管理栄養士資格の理解の向上を図った。

- ・学部の特徴を周知し理解して頂くため、学部のInstagramを数日おきに更新し、日頃の授業風景や学生生活を、Instagramを通じて積極的に広報した（投稿 588、フォロー 361 2023 年 3 月 31 日時点）。

- ・オープンキャンパス、高校ガイダンス、編入学対象短大での説明会等において、学科 NEWS、学科新聞、チラシなどの媒体を配布しながら学部の理解向上に努めた。

- ・2022 年度入学者の卒業高校など 47 校への訪問を実施した。

- ・岡山県立高松農業高等学校との高大連携として、令和 4 年 8 月 8 日（月）・9 日（火）（9 : 00～16 : 00）の二日間、食品科学科 2 年生 35 人が来学し、食品栄養成分分析実験や血圧・感覚の実験および栄養アセスメント実習などの授業を実施した。

【子ども学部子ども学科】

【子ども学部子ども学科】

(1) 2023 (R5)、2024 (R6) 年度に向けての授業内容確認と充実

2021 年度入学生のカリキュラムに「子どもとダンス」(3 年次後期)、「子どもとゲーム」(4 年次前期)を配置した。2023 (R5) 年度准学校心理士課程を開設した。2024 (R6) 年度に向けて認定絵本土、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状養成課程開設の準備を進めている。

(2) 保幼コースと小学校コース 継続的な採用試験対策

教志会を中心とした勉強会や採用試験対策セミナーを実施した。

小学校一次試験対策セミナー6/6～7/4、小学校二次試験対策セミナー7/11～25、8/1～18

幼保一次試験対策セミナー8/24～26 2～4 限

実技・面接試験個別対応(4 年生対象) 随時

一般教養対策講座 6/6, 13, 20, 27, 7/4, 11, 25, 8/1 の月曜 15:00～16:30

(3) 教志会を中心とした子ども学科コモンズの利用拡大

コロナ感染症対策としてコモンズの机上に透明パーティションを設置した。就職試験へ向けて4 年生が自習をしていた。後期からは3 年生が自習をし始めた。また、コモンズを会場として前期後期ともボランティア活動を計画し、実施することができた。

(4) キャリア教育の充実

就職試験に課せられる筆記試験については、毎授業で小テストを実施し知識の定着を図った。また、二次試験で行われる面接、グループ・ディスカッション、実技などに対応できるよう外部講師を招いて授業を行った。

(5) M404、M504 室の利用

M404 は狭いためコロナ感染症対策上、教員の会議以外には利用しなかった。M504 はコモンズと同様に就職試験へ向けて4 年生が自習をしていた。

(6) 岡山県備前県民局子育てカレッジとの共催

前期後期共に「中国学園大学こども・あごら」事業を実施した。

「おやこひろば」事業 7/9, 10/15, 16, R5 2/18, 3/11

「学習支援」事業 7/30

「バレーボール」教室 R5 2/8

こども・あごらボランティア「たねのくにこども園子育て支援ボランティア」1/17, 19, 20, 31

(7) 子ども学部子ども学科シンポジウム

2021 (R3) 年度は「SGDs 推進教師・保育士の育成」をテーマにオンラインでシンポジウムを開催したが、2022 (R4) 年度(実施日: 2023 (R5) 年 2 月)は、対面でシンポジウムを開催した。

(8) 募集広報の検討

保育所実習が始まる 6 月中旬から岡山県内・福山地区の高校への募集活動を行った。11 月から幼稚園・小学校教育実習の指導訪問に合わせて高校訪問を行った。また、オープンキャンパスに参加した高校生等へのグッズ郵送を子ども学科独自で 5 回実施した。

(9) 子ども学科保護者会

11 月の後援会総会後の学科別懇談会を実施し意見を聴取することができた。

(10) 入学前オリエンテーション

2023 (R5) 年度入学予定者を対象に入学前オリエンテーションを2023 (R5) 5年2月に実施した。

入学前オリエンテーションの内容：課題図書・問題集・ピアノ実技指導等

(11) たねのくにこども園との連携

前期には、毎月1回「エプロンシアター」「プログラミング」を実施した。後期には、引き続き毎月1回「プログラミング」を行うとともに、不定期に「エプロンシアター」「手袋シアター」「積み木遊び」「わらべうた・童謡」等を実施した。

【国際教養学部国際教養学科】

(1) ディプロマポリシー達成のための卒業研究支援

- ①テーマ発表会：6月1日（水）K401 教室 4年次生 23 名が卒論テーマについて質疑応答時間を含めた発表時間 10 分で研究計画を発表した。
- ②卒業研究Ⅰ、Ⅱ：指導教員の各ゼミにて研究計画策定、データ・文献収集、データ分析、論文執筆方法などの指導。
- ③中間発表会：10月26日（水）、11月2日（水）に実施。進捗状況・今後の予定を確認。
- ④卒業研究発表会：2月3日（金）に実施。卒論提出予定者 23 名が質疑応答時間を含めた発表時間 15 分で成果を発表した。また、発表内容を講義室掲示用のポスターにまとめて提出させた。

(2) 学習意欲を高める学生指導

- ①1年生：主に導入ゼミナールを通じて人権教育、図書館ガイダンス、大学における学修方法について教育。数名ずつ担当教員を決め、研究の進め方について指導するとともに、前期は岡山商工会議所から課題をいただき、PBL（課題解決型学修）の実践に取り組みグループ別発表会を実施し、松田会頭など岡山商工会議所の役員の評価を受けた。後期は英語スピーチコンテストを実施し、優秀者を表彰した。さらに、全員英語 e ラーニング教材を受講し英単語力の増進に努めた。年度当初と年度末に受験する TOEIC IP の結果を比較したところ、2割程度の上昇が見られた。
- ②2年生：専門ゼミⅠ、Ⅱ（新教育課程）において、論文、書籍の輪読を通して、先行研究の成果を学修する方法を指導。
- ③3年生：専門ゼミⅠ、Ⅱ（旧教育課程）を通して、文献レビューと卒論のテーマ選定の指導。
- ④4年生：卒業研究Ⅰ、Ⅱにおいて、上記の卒業研究指導。
- ⑤TOEIC IP： 英語学習の意欲を高める目的で、4月8日と1月31日の年2回実施。4月8日の受験者は、1年生8名、2年生18名の計26名。1月31日の受験者は、1年生6名、3年生5名の計11名。

(3) 短期・長期海外留学支援

①短期海外留学

2021 年度の入学生は GMC の学生を中心に希望者を、ベトナムにあるナカシマプロペラの工場での研修やフエ大学（Hue University）との交流により、異文化体験や交流に取り組むことを計画したが、コロナ禍の影響からか応募者がいなかったため実施しなかった。

②長期海外留学

長期（セメスター）海外留学は、コロナ禍以前は2年生を対象に英語圏およびアジアの国際交流協定大学への長期留学を勧める事業として、継続して実施してきた。コロナ禍が落ち着いたことを受け、未実施だった3・4年生も対象として、EF 社を介した長期留学および国際交流協定大学への長期留学を勧める説明会を開いた。当初留学希望者が3名おり、準備を進めていたが、予算等の問題により3名とも留学を断念した。

(4) 国際交流事業

① 韓国の公州大学との協定締結

令和 5 年 3 月 16 日（木）に韓国の公州大学との協定を締結した。今後国際交流を促進する予定である。

② MOU (提携校との覚書) の再締結

以前協定を締結していた海外大学との覚書が期限を迎えたことにより、再度協定を結び直すため、MOU を交わすための連絡を取り合った。

MOU を交わすための調整が現在進行中の大学：ハワイ大学（アメリカ）、グアム大学（アメリカ）、カルガリー大学（カナダ）

③ 夏季語学研修、春季語学研修の科目設置（令和 5 年度入学生より）

令和 5 年度の教育課程より夏季語学研修と春季語学研修を科目として位置づけ、所定の条件を満たせば 2 単位を取得できるようにした。条件としては、留学先を夏季はカナダのバンクーバーアイランド、春季はオーストラリアのシドニーと決め、EF 社の語学学校において 3 週間の語学研修を受けることとする。なお、これらの科目は他学部開放科目とする。

④ 高苑科技大学との交換留学

夏期・冬期の文化交流については、高苑科技大学の判断により短期留学の派遣は中止された。

⑤ ホンバン大学、大葉大学(台湾)、フエ大学(ベトナム)との交流

協定を締結した大学と今後国際交流を促進する予定である。

(5) キャリア教育支援（就職支援事業）とインターンシップ

① トップリーダー講義

講師：萩原工業(株) 経営戦略室 室長 高宮 純一、(株)トミヤコーポレーション 代表取締役会長 古市 大蔵、一般社団法人飛鳥学園 代表理事 堂野博之、岡山商工会議所 会頭 松田 久、JA 岡山中央 会長 青江 伯夫、日本貿易振興機構 所長 淵田 裕介、元全日本代表女子バレーボールプレーヤー 山口 舞（入試広報部）、ナカシマプロペラ(株) 代表取締役会長 中島 基善などを招へいして実施。

② キャリアデザイン

講師：NPO エリア・イノベーション代表 藤井 智晴、(株)リョービツアーズ専務取締役 小童谷 靖則、ミチナス 代表 長江 由美子、Air Bonheur 代表 藤原 奈緒美を招へいして実施。

③ インターンシップ

3 年生 10 名が総社市役所、および、ANA クラウンホテル岡山、ビザビ、アイダメカシステム、(株)ODL、マルビシスポーツ、(株)アミーゴ、極東リースなど実施した。

(6) 資格取得支援

観光(ビジネス)実務士、上級ビジネス実務士、ビジネス実務士、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)、小学校英語指導者資格(J-SHINE 認定)、日本語教育課程修了証、社会福祉主事任用資格は本学の教育カリキュラム履修により取得可能(1・2 年生の新カリキュラムでは観光実務士、上級ビジネス実務士、社会福祉主事任用資格のみ取得可能)であり、資格取得申請を勧めた。中学校・高等学校外国語(英語)教諭一種免許状取得希望者には、教科・教職科目を通して、教育実習の指導を行った。

また、日商簿記検定や IT 検定、TOEIC、ファイナンシャルプランナーなどの資格も取得するように指導した。

(7) 学部広報の充実

① 学部改組の広報

リージョナル・マネジメントコース、グローバル・マネジメント・コース、アグリ&フード・マネジメントコースの 3 つのコースに改訂されていることを周知すべく、大学案内、ホームページ、オープンキャンパス、高校ガイダンス、高校訪問などを通じて広報した。

なお、web 上の活動として学部の Instagram より、学部の諸活動の紹介を行うことにした。さらに、学部の PR 動画を撮影し、YouTube チャンネルにて公開した。

②高校への郵送による広報

県内高校の学校長宛に在学生の就学状況を含めた広報を郵送により実施した。

③高校訪問

5 月から 7 月にかけて県内高校 45 校、鳥取方面 11 校、愛媛方面 5 校、広島方面 4 校、福山方面 3 校、外語学校 4 校に学部教員全員で分担して訪問した。

9 月から 10 月には県内高校 32 校に絞り学部教員全員で分担して訪問した。

12 月から 1 月には学科長が 7 校に訪問し、電話を用いて 5 校に広報した。

訪問時は進路課に訪問するだけでなく、知っている教員に会って PR することを心がけた。

④高校内ガイダンス

入試広報課から依頼のあった高校において、当該分野の教員を派遣し、高校内ガイダンスを実施した。

⑤高校での出前講座・講演会

入試広報課から依頼のあった高校において、当該教員が出前講座、講演会を実施した。

⑥高大連携

岡山県立玉島商業高等学校 3 年生を対象とした「グローバル人材育成講座」において、本学教員が年間 6 回講座を行った。内 1 回(6 月 16 日)は高校生が本学を来学し、特別授業として本学教員による国際情勢と異文化理解講座や外国人教員によるアメリカ文化と異文化理解講座を受講する形で実施した。

⑦地域連携

学校法人中国学園と包括連携協定先である、久米南町と久米南町下粕地区の課題解決に取り組む新商品開発(カラフルオーガニックぜんざい)を行い、2023 年 2 月販売を行った。

(公社)おかやま観光コンベンション協会と(株)トミヤコーポレーションとは、動画共有サービス YouTube を活用した多言語での岡山市の魅力発信として、日本語、英語、中国語などの 8 カ国で岡山後楽園・岡山城の PV を制作し、令和 4 年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクトにてグランプリを受賞した。

【大学院現代生活学研究科人間栄養学専攻】

(1) 学生募集

食・栄養に関する高度で専門的な学識および技術を習得し、医療・介護・スポーツ栄養・食育・食品等の分野において、人々の健康や生活の質向上の面から地域に根ざし、社会の発展に寄与する人材を育成・輩出することができることを目標に、令和 4 年度事業計画にもとづき、以下の活動を行った

①研究指導体制の強化：2 年在学生は、第 46 回岡山県スポーツ医学研究会にて、発表し、最優秀演題に対し与えられる研究会賞を受賞することができ、さらに、その発表内容を発展させ、その内容を海外の学術誌に投稿し、R5 年 4 月現在、in revision の状況である。また、大学院担当教員は、それぞれに、自身の専門領域における関連学会等に発表及び論文掲載等の活動を行なった。1 年在学生は、自身の研究テーマを設定し、修士論文作成に向け、着実に研究を進めている。

②ティーチングアシスタント(TA)の活用：在學生は、自身の標榜する専門性に関連した科目を中心に、TA として学部教育に携わることで、学部生の学修内容をより高めることに大きく寄与するとともに、それらに対する知識・技術を深めることが可能となった。

(2) 教育の質保証

定員充足がはかられていない現状をふまえ、食・栄養に関して、大学院での学びを考慮する各層に対して、本研究科について情報発信を強化することを目的に、

①大学院担当教員の研究内容及び大学院での学びについて、広く本学在學生に対して説明・周知するとともに、3 年生、4 年生に対しては、大学院入学に少しでも関心を持つ学

生に対して、個別に説明を行なった。

②他大学学生、社会人に対して、大学院生が学術集会にいて、受賞したことなど、本学ホームページを通じて、本研究科において得られた研究成果等について、情報発信を行なった。

③社会人入学者を得るために行うべき、上記の情報発信以外のその他の活動については不十分であった。

上述のような努力を行なったが、残念ながら、令和5年度入学者は得られなかった。

【大学院子ども学研究科子ども学専攻】

(1) 広報活動

大学院学則が改正され、長期履修制度が導入されたのに伴い、現役の小学校教諭・講師、放課後児童クラブの保育士を対象として募集活動を行った。長期履修制度を利用する修学を勧める案内リーフレットを作成し、学童保育の研修会の機会に参加者に案内し、リーフレットを配布するとともに、近隣の小学校や放課後児童クラブを訪問して広報を行った。また、子ども学部在学学生に対しては、保育教職実践演習などの授業において紹介した。

(2) 研究活動

現在3名の大学院生が在籍している。修士論文については各指導教員が研究計画に沿って個別指導を行った。2022(R4)年度は、2名が修士論文を完成させ論文審査会を経て修了した。

(3) カリキュラムマネジメント

3名のうち2名の大学院生はいずれも有職の社会人なので、授業の開講時間を夕方や休日等に設定し便宜を図った。

◎中国短期大学

【総合生活学科】

(1) 生活福祉コース完成年に向けた運営

令和4年度は生活福祉コースの完成年度となる。現在本コースは円滑な運営をしており、5月には2年生の介護実習1-③を無事終えることが出来た。また、7月には1年生の介護実習1-①が無事終了し、各施設から良い評価を得ることができ、9月には1年生の介護実習1-②Aを問題なく終えることが出来た。1年生は前期に2回の現場実習によって、介護福祉士に向けた自覚が芽生え始めた。

生活福祉コースの完成年度を迎えた著しい成果は、本学科の生活福祉コースの1期生全員が介護福祉士国家試験に合格し、100%の合格率を達成したことや、就職も決まり、介護現場で即戦力として活躍できることだと考える。学生活動では、生活福祉コースの1年7名が10月に天神山文化プラザで開催された学生福祉国会に出場した。出場校は岡山県下の福祉系4年制大学で、短期大学しかも1年生のチームは本学だけであった。また、総合生活学科生活福祉コース1年生がNHKの「新・介護百人一首2022」に入選を果たした。

教育の質を担保するために、生活福祉コースの物品の入れ替えを進めた。専攻科から使い続けた物品の入れ替えを進め、10月には医療的ケアのモデル人形を追加で購入したほか、使い捨て手袋、杖歩行訓練のステップなどを購入し、古くなった部品や機器のリニューアルを図ることによって授業の質の向上を図った。

(2) キャリア支援の継続的運用

令和4年度は、1年前期により初歩的な「キャリア基礎演習」を追加することによって、学生が将来のキャリアに関するイメージができる基礎教育を行った。それに合わせて後期の「キャリア開発演習」と併せてカリキュラム上で支援することで学生が「仕事」に対する考え方を1年生から自覚してもらうように実施してきた。総合生活学科では1年生からキャリア教育の成果が表れ、1年生から就職ガイダンスに参加するようになった。

さらに、ストレス社会を生活していく中で、ストレス対処について学ぶメンタルヘルス学の科目を増やし、メンタルヘルスの検定も導入する準備を進めている。生活福祉コースでは、それぞれの担当教員が医療機関、社会福祉法人等への実習指導の際に就職の指導も重ねており、就職フェアに参加するなどキャリア活動を積極的に進め、学生の就職に繋げた。

(3) 地域貢献

令和4年度の総合生活学科の教員による地域貢献活動は以下のような活動を行った。

【韓在都教授】

- ・4月15日 講演会「笑顔学と健康」吉備創生カレッジ
主催：大学コンソーシアム岡山対象：一般21名

【松井圭三教授】

- ・6月26日 さんかくウィーク 2022年シンポジウム 「ジェンダーを本音で語ろう」
主催：岡山市 場所：さんかく岡山 対象：一般40人
- ・7月9日 手話奉仕員養成講座「障害者福祉論」
主催：岡山県 場所：きらめきプラザ 対象：一般30人
- ・8月20日 要約筆記養成講座「社会福祉の理念と歴史」
主催：岡山県 場所：きらめきプラザ 対象：一般30人

【小築康弘教授】

- ・8月17日・8月23日・8月30日 香川県委託事業
令和4年度保育士等キャリアアップ研修 ④「食育・アレルギー対応」
主催 一般財団法人 香川県私立認可保育園連盟
場所：香川県社会福祉総合センター
対象：香川県の保育園で保育に従事する保育士等 百数十名

【中野ひとみ准教授】

- ・8月23日 人権教養講座「人と人学」
「地域へ活かす持続可能な災害教育～西日本豪雨災害の教訓をどう活かすか」
主催：倉敷市 対象：一般50人 場所：倉敷公民館
- ・9月6日岡山県介護人材キャリア形成訪問指導事業
「福祉施設の災害防災と災害マニュアル」
主催：岡山県 対象：介護職員15人 場所：総社市社会福祉法人清音
- ・9月14日 岡山市介護人材育成研修
「岡山県福祉介護施設の災害対策の現状と課題ー西日本豪雨災害の教訓は活かされるかー」
主催：岡山市 対象：介護職員20人 場所：岡山ふれあいセンター
- ・9月15日 岡山市介護人材育成研修
「岡山県福祉介護施設の災害対策の現状と課題ー西日本豪雨災害の教訓は活かされるかー」
主催：岡山市 対象：介護職員20人 場所：西大寺ふれあいセンター
- ・11月21日 令和4年岡山県防災・福祉対応力向上研修会（きらめきプラザ）
岡山県社会福祉士会 23人
- ・11月29日 令和4年岡山県防災・福祉士対応力研修会（津山公民館）岡山県社会福祉士会 18人

【加賀田江里准教授】

- ・7月2日 さんかくウィーク 2022
「サイエンス×クッキング!～卵の変身を見てみよう～」
主催：岡山市 場所：中国短期大学 調理実習室Ⅲ 対象：一般 32名

【仁宮 崇准教授】

- ・11月25日 日本医療秘書実務学会セミナー
「言葉の力とメンター：今すぐ誰でもできる簡単なストレス対処」（オンライン）
日本医療秘書実務学会 16人

【奥村弥生講師】

- ・ 5 月 20 日 講演会「コミュニケーションスキルを身につけて楽しい学校生活を送ろう」
対象：倉敷工業高等学校 1 年生 場所：倉敷工業高等学校

(4) ICT 活用の継続

学科の事務や学科会議において情報共有に G mail や Google Classroom を使用している。新入生向けの入学前教育に関する資料や問い合わせにおける ICT 活用は大いに役立っている。また、Google Classroom の活用は情報機器利用の入り口の役割をしている。各学年の「ホームルーム」を利用した情報共有は学生たちにも定着し、活用している。また、この Classroom や Google Form を活用し、遠隔授業に活用し、一部の教員は普段の授業にも活用している。これらの活動を継続し、学生が情報機器の操作が当たり前の行動となることを支援するとともに、効率的な情報共有を継続して行う。

(5) 学生募集

令和 4 年度の総合生活学科では学生募集のために主な活動は以下のとおりである。

- ・ 学科独自のミニガイドを作成
ミニガイドは学科の紹介を充実させ、オープンキャンパスや高校訪問時に持参し、学生募集のための学科案内に使用している。
- ・ 教員による高校訪問
各担当の先生が福山、津山など地方の高校を訪問し、本学科の魅力を伝える活動を行った。
- ・ オープンキャンパスのリニューアル
今まで開催してきた方法を変更し、より高校生に密着したオープンキャンパスの企画を行った。新しい方法で開催した 3 月のオープンキャンパスでは高校生、在学生、教員ともに充実したオープンキャンパスであることを確認できたので、令和 5 年度も引き続き新しい企画を準備中である。
- ・ 短大 3 学科共同企画
外部講師を招き、SNS やインスタグラム利用法などのレクチャーを受ける企画に教員が参加した。高校生に対して短大の魅力をアピールできる SNS 運営上のポイントを学び、HP やインスタグラムの内容の充実を図ることができた。

【保育学科】

本学科は「乳幼児の保育・教育の教育研究を通じ、専門知識ならびに技能の習得を図り、保育・教育現場において一人ひとりの乳幼児に合わせた指導のできる保育者として寄与できる人材」を養成するため、主として次の事業に取り組んでいる。

- 1 たねのくにこども園と連携を図った魅力ある授業づくり
 - ・ 前期の保育者基礎演習、（保育内容）人間関係、保育実習指導 B、言葉の指導法、子どもの理解と援助等の教科では、たねのくにこども園の保育者のかかわりや子どもたちの様子・環境構成を見学した。入学直後からたねのくにこども園との交流が頻繁にできており、学内の授業で学んだことを具体的に理解する学びの総合化が実践できた。
- 2 基礎学力・基礎技能の育成を図る授業づくり
 - ・ 講義や演習では、学生が主体的・対話的で深い学びができるように学修課題の提示、教育機器やワークシートを活用した説明、グループワーク、発表、振り返りシートの記入などを取り入れることにより知識・技能を修得するとともに、それを活用して課題を解決するための思考力・判断力、表現力の育成を図ることができた。
 - ・ 社会福祉等の教科において NIE 教育を取り入れ、読む力、考える力、書く力の強化を図った。
 - ・ 音楽基礎演習の教科にグレード制を取り入れ、音楽の基礎的な技術の定着を図っている。また、学生が自由にピアノの練習ができるように、練習の使用時間を設定した。

- ・幼児造形の教科で、教材・教具を工夫し、実践的・創造的な学びを保障するよう努めた。
- ・動画やPC、デジタル教材等のICTを活用した授業をおこない、効果的な学びとなるよう工夫した。
- ・乳児保育では、沐浴人形の教材を十分に確保し、自主練習ができるよう学生の学びの機会を保障した。

3 保育実習・教育実習における学びの充実

- ・令和3年度までコロナにより、学内実習への変更や実習時期の延期など多大な影響を受けてきた。令和4年度は、コロナの影響も落ち着いていたため、大半の実習が予定通りに実施できた。実習直前に、助産師・思春期相談員を講師として招聘し、「子どもに対する性の健康教育のあり方」について講話をしていただき、保育所・幼稚園において遭遇する事柄への適切な対応方法について理解を深めた。
- ・幼稚園教育実習は、幼稚園教諭2名を講師として招聘し、幼稚園教育実習への心構えの確認をした。さらに、発達障がい療育・相談支援の専門員2名を講師として招聘し、特別な配慮を必要とする子どもについて説明をしていただき、理解を深めると共に学習意欲の向上を図ることができた。
- ・幼稚園実習も予定していた実習園で、最後まで実習をすることができ、現場でしか経験できない子どもたちとのやり取りや環境づくり、教材づくりを学ぶことができた。
- ・施設実習は、ここ2年現場と学内に分かれての実習が続いていたが、3年ぶりに希望者全員が現場での実習を経験することができた。

4 保育学科発表会等の開催による学修成果の発表

- ・コロナ禍で2年間中止してきたが、令和4年度は本学体育館でコロナウィルスに対する感染対策を可能な限り施し、第50回となる節目の保育学科発表会を開催することができた。
- ・今回の発表会から、照明や音響を含めた裏方の役割もすべて自分たちで行うことにしたこともあり、今まで以上に学生が主体的に取り組むことができた。
- ・中国四国保育学生研究大会は、本年度もオンラインでの開催となったが、2年生が授業成果を動画に収め、同じ保育者を目指す学生に対し発表することができた。

5 中短子育てパーク等の実施による地域連携・地域貢献の推進

- ・吉備公民館と共同開催の子育て支援（この指と一まれ）は、コロナ禍で人数制限を設けながら学生が企画した遊びを実施した。地域の子どもや保護者にとっては、ほっとできる居場所となっているのに対し、学生にとっては、地域の子どもや保護者と交流できる貴重な機会とすることができた。
- ・ちゅうたんおもちゃ公園は、少し規模は縮小したものの、4年ぶりに対面での開催が実現した。地域の方々にとって10年以上続く恒例行事となっていることもあり、多くの家庭から使わなくなったおもちゃを提供していただくこともできた。
- ・アイサワ工業（株）並びにアイサワ商事（株）のSDGs事業に協力し、吉備小学校の学童保育の子どもたちと学生で、建築廃材などを用いた造形活動を実施した。子どもたちの作品は、表町商店街で展示され、同時にその場での廃材を使った製作活動も実施した。

6 ホームカミングデー、リカレント研修会等の開催による卒業生支援

- ・5月にホームカミングデーを実施して、相談を受けるなど早期離職を回避できるよう努めた。
- ・大学祭において、ホームカミングデーと、リカレント研修会を開催した。令和4年度のリカレント研修会は、造形活動をテーマに実施した。

7 学科の魅力を発信するための広報活動の充実

- ・入試広報部と連携を密にして、高校ガイダンス等に積極的に参加した。
- ・保育学科の入試広報担当の教員が、愛媛県の広報担当者（参与）に2日間同行して高校訪問し、本学の魅力を熱心に伝えて回った。校長先生は参与だけの訪問に比べ、大変熱心に聞いて下さった。その結果、令和5年度入試で、愛媛県から複数名の受験者があった。今

後は、エリアを四国全土と広島県に拡大する予定である。

- ・令和4年度岡山県立岡山南高校と高大連携協定を締結し、生活創造科の2年生を対象に出前授業を行った。その甲斐あって、オープンキャンパスに参加する岡山南高校の生徒が増加した。出前授業を受けた

高校生とその保護者は、見かけた教員がいることが大きな安心につながると話したので、広報活動として今後も継続したい。

- ・オープンキャンパスに入試広報委員として若手教員を起用して、高校生により近い感覚を広報活動に取り入れた。企業とコラボレーションしたノベルティグッズの作成と配布、スタンプカードの作成とポイントに応じたプレゼントのセレクションなど細かい仕掛けをおこなった。それによって、複数回参加する生徒が増加してきた。
- ・保育学科インスタグラム・中国学園ホームページ、保育学科サブパンフレットを利用して、保育学科の魅力を多くの人に知ってもらうよう努めた。

【情報ビジネス学科】

(1) 学修内容のレベルアップ

情報ビジネス学科では専門フィールドとして、「経営・会計フィールド」、「ビジネス・キャリアフィールド」、「情報フィールド」、「メディアフィールド」の4領域を持っている。それに加え「心理学フィールド」、「データサイエンスフィールド」の2つのフィールドを設置し、幅広いニーズに応えることのできるカリキュラムとなっている。また、本学科には短期大学では珍しいゼミナールを開設している。令和4年度、ゼミナールの改善として各学期初めに各学生別の細かな希望を聞き、その実現に向けた細やかな指導を行った。また、各担当ごとに履修や学生生活・就職についてもきめ細かく相談に乗るなど、従来以上に充実した指導・支援を行った。カリキュラムツリーに即しての指導については各期の履修登録の際、繰り返しカリキュラムツリーを提示し、学生が納得した上で履修できるよう取り組んだ。資格関連の科目については、多くの学生が資格・検定に合格できるよう履修指導を行った。MOSでは10名、日商簿記検定も3級が8名・2級が1名の合格者を輩出した。また、日本語検定では3級で10名・準3級に2名の合格者が出た。レベルや目標に応じた学修支援体制を整え授業を行った。

また今年度、時代の変化や要求もあり、新たな事業を模索検討してきた。その中から新年度のカリキュラムの中でクロスリアリティ（XR）を新規導入することとなった。

(2) 実践型体験学修の強化

授業で得られた知識やスキルを実践する力を育成するための実践型体験学修をさらに強化した。

10年以上に渡り体験学習として取り組んできた番組制作体験の「キニナル箱！」（テレビせとうち及びレディオモモで放送）は令和3年度通算100回の放送を持って終了した。今年度は「キニナル箱！」とは別に特別番組として総社市と連携した番組を制作し、11月に放送した。

また、ラジオの取り組みに関しては、学生たちの要望も強く、貴重な体験の場になることを期待し、月2回、第1・3週目の日曜日に「倉敷なんでも応援団」（FMくらしき）の放送を継続してきた。さらに、地域連携・企業連携の一環で継続して行っている、地域のイベントや音楽イベントなどへのボランティアスタッフとして、11月のジャズフェスティバルに述べ30名・12月のくらフェスに10名が参加した。参加した学生たちにとっては大きな学びの場であり、一回り大きく成長した姿を見ることができた。

(3) 学生募集のための新たなスキーマの整備

SNSやYouTubeなど、近年の広報活動の重要な手段となっているデジタルコンテンツを活用して、学科の特色を活かした募集活動を展開してきた。具体的にはYouTubeにおいての動画の公開を始め、Instagramを用いての情報発信である。また、紙媒体のリーフレットも制作し、各種イベントや高校訪問の際に配布した。

Ⅱ こども園の重点的取組

(1) 地域のこども園として

3歳未満児 60名、3歳以上児 131名、合計 191名でスタートした。その後、毎月入園希望者があり地域から求められている実態がある

が、年齢によっては、定員を充足しているため、受け入れはできなかった。新型コロナウイルス感染症により、地域との園行事は中止・縮小する等となった。予定していた地域の方との子育て支援事業では数名ではあるが参加があり、実施できた。「地域に根差す園」として地域へ浸透することが難しかった。

(2) 大学・短期大学との協働

①園児対象に大学・短期大学の教員や学生が行うもの

<遊びの提供>

運動遊び・タブレットを使用しての遊び・英語遊び・エプロンシアター・歌遊びを定期的に実施した。菜園での野菜栽培や収穫体験をした。

②大学・短期大学の教員や学生を対象にこども園で行うもの

こども園での授業（子ども学科・保育学科・人間栄養学科）・保育実習（子ども学科・保育学科）・調査研究（子ども学科・人間栄養学科）は新型コロナウイルス感染症対策をとった上で実施した。

(3) 子育て支援

①園児の保護者に対するもの

- ・延長保育事業を実施した。保育短時間延長は年間 74 名、保育標準時間延長は年間 2310 名、合計年間延べ 2384 名の利用があった。
- ・幼稚園型一時預かり事業を実施した。年間延べ 1421 名の利用があった。

②地域の子育て家庭に対するもの

一時預かり事業では、勤務形態によるもの、私的理由によるもの等の理由で 6 名の登録があった。新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら、実施した。子育て支援講座は 5 回開催し、13 家庭の親子が参加した。ふれあい親子広場は月 1 回実施し、25 組が利用登録して参加した。園庭開放・育児相談については、毎週 2 回の開催を予定していたが利用者は少なかった。

(4) 教育及び保育の質の向上

中国学園大学・中国短期大学教員による園職員対象の園内研修を実施した。岡山県私立幼稚園連盟主催「公開保育研究会」は動画による配信を加盟園に発信し研究の成果と保育教諭の教育及び保育の質の向上につながった。

Ⅲ 事務局及び機関の重点事業

(1) 学部・学科の発展的改組の推進等

大学では、2021 年度から国際教養学部国際教養学科をリージョナル・マネジメント・コース、グローバル・マネジメント・コース、アグリ&フード・マネジメント・コースの 3 コースに改組した。

また、短期大学では、2020 年度末で専攻科介護福祉専攻を廃止し、2021 年度に総合生活学科に生活福祉コースを新設したが、令和 4 年度末、最初の卒業生を送り出した。

これらの学部・学科を含め、中国学園大学及び中国短期大学が魅力あるものとなるよう、学部・学科の名称の変更や学部・学科の在り方等も含め改革を進めた。

事務局においても効率的な組織への転換を図るとともに、入試業務全般を教務課から入試広報課に移管するなど、業務の見直しを行い効率化を進めている。

(2) 学生確保の取組みの充実・強化

今年度の入学者数が昨年度と同じという大変厳しい状況のもとで、今年度の入試広報を進めている。新型コロナウイルス感染症のため、まだまださまざまな制約はあるが、かなり従来行っていた活動ができるようになってきている。

本年度から入試業務が教務課から入試広報部に移管されている。実施された選抜はいずれも滞りなく終了した。今年度入試で制度変更があったのは、総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期において一次選考の制度が導入されたことであり、実質的な合否判定時期が早まることを高校等にアピールしている。

専願の入試区分による入学予定者数は、ほぼ一昨年度と同じで、昨年度と比べて約5%の減少である。しかしながら、併願可の区分の出願者、手続者が少なく、合計では、一昨年度、昨年度の約10%減である。一昨年度、昨年度、今年度と比較すると、学部・学科別では次のとおりである。保育学科、情報ビジネス学科は少しずつ増加している。現代生活学部、子ども学部は減少傾向である。国際教養学部は絶対数は少ないが、少し持ち直している。総合生活学科は昨年度増加し、ほぼそのままを保っている。

次年度は、「中国学園改善検討会議」での審議を踏まえ、具体的な取組について共通理解を図ったので、それに従い、入学者数の確保に努めたい。

① Webでの情報発信を見直し、内容、方法を改善する。

- ・LINE、Instagramでの情報発信は昨年度までと同様なレベルで行っている。
- ・TETORI（HPを見る人の属性などに応じて、注目してほしい内容が表示されるシステム）の運用を年間契約で本格化した。報告書によるとHPの閲覧数の増加が見られる。
- ・動画の種類、掲載数はDISCOのサイトのものとCGスマイル制作のものを増やした。

② さまざまなチャンネルにより高校生、保護者、高校教員と接触し、信頼関係を構築した上で、本学の魅力を対面で発信する。

- ・学部・学科の教員の方による高校訪問は昨年度216件であったが、296件と大幅に増やした。
- ・出張講義一覧を高校訪問にあわせて配付するとともに、HPに掲載した。9件の申し込みがあった。他に、複数回の交流がのべ11回、来訪しての実習が2回あった。
- ・連携協定校である倉敷高校からは、説明会への参加依頼、本学見学会などの依頼があり対応した。銀河学院高校からは、具体的な依頼はなかった。
- ・国際教養学部、総合生活学科の改編、新コースの発信は通常の広報の中で行っている。
- ・ミニオープンキャンパスは12名の参加があり、オープンキャンパスに参加できなかった生徒のニーズに応えている。
- ・在学生による母校訪問をお願いしているが、あまり訪問数が増えていない。

③ 入学生の志望校決定に関する事項を把握する調査を年度初めに行った。概要は幹部会、教授会で報告し、詳細はサイボウズ上で閲覧可能にした。これまで、断片的に把握していたり、予想していたことを体系的に把握したり、確認することができたので、広報活動に活用していきたい。

④ オープンキャンパスの内容、方法の見直し、充実を図る。

- ・各学部・学科の会場にパネル、実物などを展示していただくことで、説明以外で情報を提供するようにした。
- ・のぼり旗を作成し、華やかな感じが出るようにした。
- ・「CGスマイル」（広報スタッフ）に受付、学内案内に協力してもらった。参加者が満足していることがアンケートからうかがえる。CGスマイルのメンバーからも充実感、達成感を感じたとの感想が得られている。

(3) 学生支援の充実

学生の大学における満足度は受験生の大学人気に与える影響が大きい。

「学生主体の大学」というコンセプトのもとに、学生の立場や参画を念頭においた改革を

推進し、学生の満足度をより一層高めていく必要がある。そのため次の取組みを積極的に実施した。

① 就職支援の充実強化

令和4年度の卒業生の就職決定率は大学 99.3%、短期大学 98.4%であった。高い就職率を維持し、学生一人ひとりが満足した就職ができるように、次の5点について学生支援体制を強化する。次に、3月29日現在の就職状況を示す。

1 各学部・学科の教員と就職支援センターの職員との連携を強化する

就職内定率を一層高く保持するために、学部学科の就職支援委員会を中心とした教員と連携を強化する。学生一人ひとりに寄り添い、「仕事」についての理解を深めさせる。

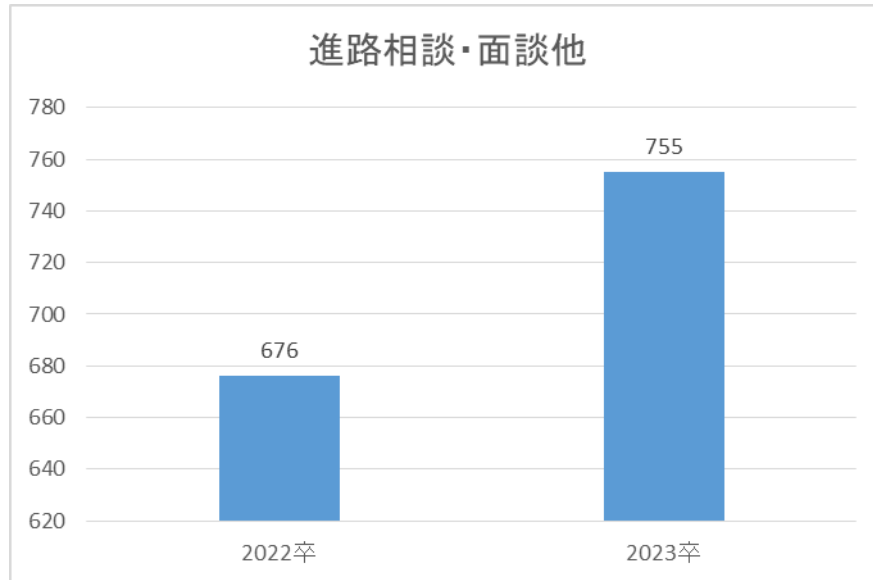
就職支援委員会を中心として、学部学科との連携を深め、学生に自分の希望する仕事につけるよう、お互いの知恵を出し合い、工夫した取り組みを行う。その方法の一つとして、早期に面談を実施する。就職支援委員と就職支援部職員とで学生一人ひとりとの面談を実施する。さらに、ガイダンス参加者に書かせている「ガイダンス日誌」の継続実施である。これによって、学生一人ひとりのガイダンス参加時の感想を共有し、適切なアドバイスを学生に直接することができる。

		令和4年度					令和3年度(5/1)	
		卒業数	就職希望者数	内定者数	内定率	進学者数	内定者数	内定率
大学院	人間栄養学専攻	1	1	1	100.0%			-
	子ども学専攻	2	2	2	100.0%		1	100.0%
	小 計	3	3	3	100.0%	0	1	100.0%
大学	人間栄養学科	53	53	53	100.0%		38	97.4%
	子ども学科	106	100	100	100.0%		78	100.0%
	国際教養学科	23	20	19	95.0%	2	28	100.0%
	小 計	182	173	172	99.4%	2	144	99.3%
短期大学	総合生活学科	51	43	42	97.7%		45	97.8%
	保育学科	70	68	66	97.1%		94	100.0%
	情報ビジネス学科	48	41	40	97.6%	2	42	95.5%
	小 計	169	152	148	97.4%	2	181	98.4%
合 計		354	328	323	98.5%	4	326	98.8%

※卒業数には9月卒業を含む

進路相談等での面談状況は、4月から3月までに延755人に達した。これは、就職支援委員の先生方にご指導いただいた結果である。ただし、昨年は5月と9月の緊急事態宣言が多少なりとも影響があったといえる。

また、学科独自の早期面談については、情報ビジネス学科1年生を対象に、10月3日(月)から5回に分けて実施した。



就職支援委員会は、8回実施した。内容は次のとおり。

回数	実施日	内 容	会 場
1	4/6	水 令和3年度の就職状況 令和4年度事業計画、委員会年間計画、就職ガイダンス年間計画、就活サポーターズの運営、昨年の事業計画最終報告、今年度初回の就職ガイダンスのプレゼン	M202
2	5/25	水 2024卒就活スケジュールとインターンシップの重要性、就職状況・支援活動について、第1回就職ガイダンス参加状況、就職支援センター利用状況、就職ガイダンス参加者の感想、就職ガイダンス近日開催予定、令和3年度の就職状況	M202
3	6/15	水 就職支援センター利用状況、進路内定届提出状況、求人状況、各学科の就職活動・支援状況について、第2回就職ガイダンス参加状況、就職ガイダンス参加者の感想、今後のスケジュール	M202
4	7/27	水 求人状況、就職支援センター利用状況、第3回就職ガイダンス参加状況、就職ガイダンス参加者の感想、進路内定届提出状況、各学科の就職活動・支援状況について、就職ガイダンス「学内インターンシップフェア」について、研修報告(全国私立大学就職指導研究会中国・四国地区大会、大学コンソーシアム岡山 第25回就職支援委員会)	M202
5	10/19	水 求人状況、就職支援センター利用状況、ガイダンス申込に対しての実質参加率、進路内定届提出状況、就職ガイダンス・委員会当面の行事予定、就職個人カードについて、就活ガイドBOOK、求人のためのご案内について、研修報告(日本私立大学協会中国・四国支部分科会、私立短期大学就職担当者研修会)	M301
6	12/21	水 アンケート(就職先、卒業生、在校生)、2023年3月卒業の内定状況、次年度重点事業～インターンシップの推進・強化について～、就職ガイダンス・当面の行事予定、次年度就職ガイダンス年間計画、各学科の就職活動・支援状況、研修報告(日本私立大学協会 就職部課長担当者会議)、求人状況	M202
7	1/18	水 アンケート就職送付先、2023年3月卒業の未内定者、各学科の就職活動・支援状況、就職ガイダンス 当面の行事予定、求人状況	M301
8	2/15	水 2023年3月卒業の未内定者、各学科の就職活動・支援状況、2023年3月卒業対象の就職支援センターに関するアンケート、求人状況、研修報告(大学コンソーシアム岡山 第26回就職支援委員会)、コンソーシアム岡山主催令和4年度岡山県合同企業説明会、最新内定情報、就職ガイダンスのまとめ、学内企業研究セミナー(気になること、不安に思っていること)	M202

2 就職活動の支援の工夫と充実

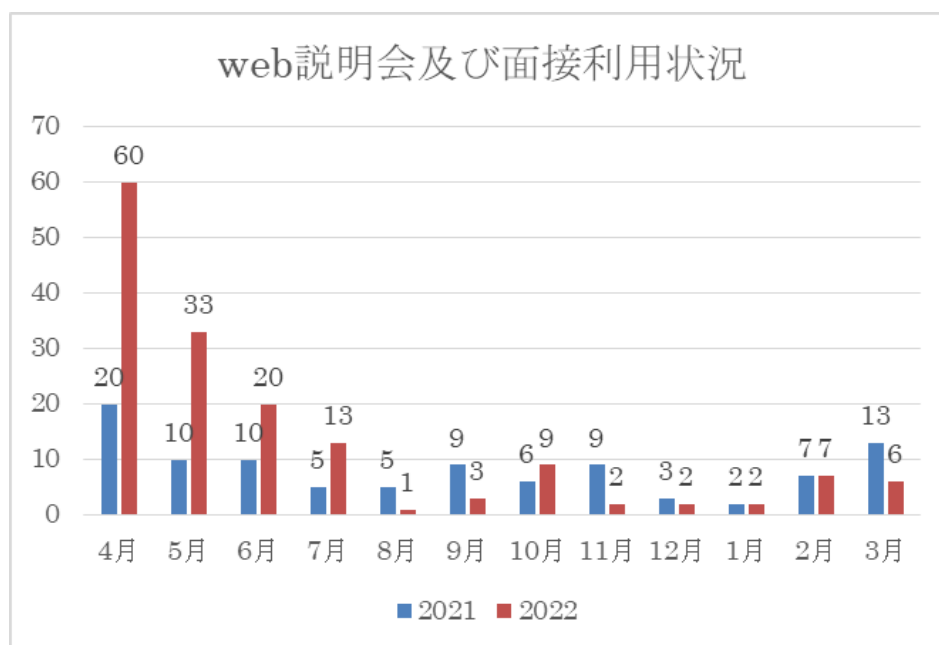
学生が相談しやすい環境整備に取り組む。学生とのコミュニケーションの中で、学生が必要とするプチセミナー（オンライン含む）を適宜開催し、学生を支援する。さらに、新規企業開拓に努め、学生の選択領域を増やす。

まず、始業開始時間8時45分から、全員で就職支援センターの清掃に取り掛かっている。新型コロナウイルス感染症対策のため、消毒を実施。これによって、学生が安心し、気持ち良く訪問・相談できるようにしている。

また、新規に241事業所から求人票を入手している。

特筆すべきは、早期から自分の目標を定め、自ら新規開拓を行い、インターンシップへも参加した学生の存在である。就職支援センターとしても、アドバイスをはじめ面接練習等支援した結果、独立行政法人国立青少年教育振興機構へ内定を獲得した。

また、新型コロナウイルス感染症対策のために、各企業等がオンライン説明会及びオンライン面接の実施が増加している。それに対応して、就職支援センターの一角にオンライン説明会等に対応できる部屋を設置した。次に利用状況を記載する。



3 就職ガイダンスの工夫と改善・充実

学生が望んでいるタイミングで、適切なガイダンス内容を実施する。講義形式から、学生自ら実施するワーク形式への変更等を積極的に実施する。ガイダンス当日記入する「ガイダンス日誌」及び、各ガイダンス時に配付した資料等をファイリングさせ、就活に役立てる。

現在も引き続き新型コロナウイルス感染症対策に注意した実施である。ソーシャルディスタンスの確保、ガイダンス開始前の教室及び学生入室時の消毒である。内容は、一方的な講義からワークや実習等の動きを取り入れたものに変更している。そのために、事前申込制も継続して導入し、座席指定等の工夫を行った。

新型コロナウイルス感染予防のため、外部のセミナー等でも事前申込制であり、学生が外部での活動にも対応できるようにと工夫を行っている。引き続き、大学生については、2年生、1年生の参加も可能としている。

さらに、できる限り「スーツ」での参加を呼び掛けている。

2023卒の就職ガイダンスのまとめ

日付 時間帯	回数	内容	講師他	形式	会場
2022 7/6(水) 14:50～16:20	15	社会に出るのはこわくない！？ セミナー	おかやま新卒応援ハローワーク 河本 義裕 氏 熊谷 洋子 氏	講義と実習 (ワークシート)	M301
2022 12/14(水) 14:50～16:20	16	知って役立つワークルール	就職支援部 部長 山口裕行 徳永 咲	講義	就職支援 センター
2023 1/10(火) 13:30～14:20	臨時	知って役立つワークルール	就職支援部 部長 山口裕行 徳永 咲	講義	1201A

参加人数（人）

回数	人間栄養	子ども	国際教養	小計	総合生活	保育	情報ビジネス	小計	合計
15回	2	2	0	4	0	0	3	3	7
16回	0	1	0	1	0	0	2	2	3
臨時	0	0	0	0	41	0	0	41	41

2024卒の就職ガイダンスのまとめ

日付 時間帯	回数	内容	講師他	形式	会場
5/11(水) 14:50～16:20	1	就職支援センター紹介他(大学のみ)	就職支援部 部長 山口裕行	講義と実習 (ワークシート)	M301
5/18(水) 14:50～16:20	1	就職支援センター紹介他(短大のみ)	就職支援部 部長 山口裕行	講義と実習 (ワークシート)	M301
6/1(水) 14:50～16:20	2	インターンシップと就職情報サイトの利用について	株式会社マイナビ 奥原 峻 氏 株式会社リクルート 天野 司基 氏 株式会社ビザビ 柳澤 千尋 氏 株式会社シーズ 木戸 ほのか 氏	2024年卒の就活スケジュールとインターンシップについて 就職情報サイトの登録	M301
7/13(水) 14:50～16:20	3	インターンシップと自己分析	事例発表 国際教養学部 丸橋捺希 さん 総合生活学科 高橋京夏 さん 株式会社シーズ 木戸 ほのか 氏	講義と実習 (ワークシート)	M301
7/30(土) 13:30～16:00	臨時	オンラインインターンシップフェア	オンワード樫山 (株)サンラヴィアン 岡山市農業協同組合 (株)外林 ダブルツリーグループ 玉島信用金庫 (株)プブレひまわり (株)シーズ	説明とミニ体験	オンライン

日付 時間帯	回数	内容	講師他	形式	会場
10/5(水) 14:50～16:20	4	身だしなみ講座	はるやま商事株式会社 就活 ディレクター 野村 興 様	講義と実演・実習	M301
10/12(水) 14:50～16:20	5	メイクセミナー	「Aurora」 メイクアップアーティ スト 畠 真寿美 様	講義と実演・実習	M301
10/19(水) 14:50～16:20	6	履歴書・ES対策講座	株式会社リクルート 森田 貴文 氏	講義と実習 (ワークシート)	M301
10/26(水) 14:50～16:20	7	面接対策講座	株式会社マイナビ 奥原 峻 氏	講義と実習 模擬面接	M301
11/16(水) 14:50～16:20	8	企業研究①	コオ・マネジメント 窪田 司 様 両備グループ 仁科明子 様 トップランク 谷口翔一 様	パネルディスカッション	M301
11/30(水) 14:50～16:20	9	先輩からのメッセージ	大学4年生及び短期大学2年生 6名	パネルディスカッション	M301
12/7(水) 14:50～16:20	10	学内仕事研究&インターンシ ップフェア	WORK SMILE LABO 中田雛乃 様 プブレひまわり 大森あゆみ 様 サンラヴィアン 南 百恵 様 トマト銀行 越智悠輔 様 大善 秋庭佳典 様 日産サ テリオ岡山 二宮裕美 様 オン ワード檜山 梶川祥平 様 竹 久夢二本舗敷島堂 井上和彦 様	面接形式	M301 M303 M304
1/11(水) 14:50～16:20	11	企業研究②	コオ・マネジメント 窪田 司 様 水島信用金庫 林 高広 様 ファーマシイ 阪口利奈 様 西 川真弘 様 ザグザグ 石田由 佳 様 イタミアート 伊丹裕子 様 服部真子 様	パネルディスカッション	M301
1/18(水) 14:50～16:20	12	求人票の見方がみるみる分か る！就活準備丸わかりセミナー	就職支援部 部長 山口裕行	講義と実習 (ワークシート)	M301
2/8(水) 13:30～16:00	13	学内合同企業研究セミナー	両備グループ 仁科明子 様 水島 信用金庫 林 高広 様 ホテルグ ランヴィア岡山 駒方三喜子 様 ネット トヨタ山陽 石田吉邦 様 岩田 崇 様 清水泰統 様 ジェイアール 西日本フードサービスネット 清水亜 紀 様 戸田怜実 様 三宅颯花 様 ザグザグ 浅野咲帆 様 物部祐 季 様 エムアンドシーシステム 福 永弘和 様 イタミアート 伊丹裕子 様 服部真子 様	面接形式	M301 M303 M304
2/9(木) 13:30～16:00		学内合同企業研究セミナー	明石スクールユニフォームカンパニー 廣澤雄介 様 向 祐太 様 ANAク ラウンプラザホテル 吉本潤史 様 岡山日産自動車 原田桂子 様 多 田光輝 様 谷川義幸 様 笠岡信 用組合 藤田正徳 様 シーズ 木 戸ほのか 様 阪 是るか 様 ファーマシイ 阪口利奈 様 西川真 弘 様 マックスバリュ西日本 小松原 理永 様 八州電気工業 山本有香 様	面接形式	M301 M303 M304

参加人数一覧（人）

	実 参 加 人 数															
	人間栄養			子ども			国際教養			3年生	小計	総合生活	保育	情報 ビジネス	小計	合計
	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	計						
第1回	22	0	2	21	1	0	12	0	0	55	58	－	－	－	0	58
第1回	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	24	85	40	149	149
第2回	13	0	1	8	0	0	10	0	0	31	32	14	7	32	53	85
第3回	2	0	0	2	0	0	10	6	0	14	20	0	72	20	92	112
オンラインインターンシップ	0	0	0	0	0	0	8	0	0	8	8	1	0	9	10	18

	実 参 加 人 数															
	人間栄養			子ども			国際教養			3年生	小計	総合生活	保育	情報 ビジネス	小計	合計
	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生	計						
第4回	1	0	1	5	0	0	3	0	0	9	10	0	38	30	68	78
第5回	4	0	1	1	0	0	6	0	0	11	12	5	35	22	62	74
第6回	0	0	0	2	0	0	9	0	0	11	11	24	41	27	92	103
第7回	4	0	0	0	1	0	8	0	0	12	13	13	13	28	54	67
第8回	1	0	0	2	1	0	8	0	0	11	12	15	0	21	36	48
第9回	0	0	0	2	1	0	2	0	0	4	5	12	18	17	47	52
第10回	0	0	0	0	2	0	4	0	0	4	6	22	0	13	35	41
第11回	0	0	0	3	0	0	2	0	0	5	5	11	1	14	26	31
第12回	0	0	0	6	1	0	2	0	0	8	9	17	1	16	34	43
第13回	0	0	1	4	0	0	14	0	0	18	19	13	0	17	30	49
第13回	0	0	1	0	0	0	8	0	0	8	9	6	0	7	13	22

※第1回は、4大生対象のものと、短大生対象のものがある（内容は同じ）

4 インターンシップの推進・強化

インターンシップ実施についての情報を素早く学生に伝達する。インターンシップの重要性を訴えるとともに、就職ガイダンスを強化し、学生に目的を持った参加を促す。

インターンシップの実績は、就職支援センター提出の報告書によって把握している。現在「1dayのインターンシップ」は、「1day仕事体験」とよばれることになった。学部・学科就職支援担当の先生方の協力をいただいた。結果は次の表のとおりである。

インターンシップ実施状況（報告書から作成）

学 科	実 施 場 所	参加延べ人数（人）（昨年）
人 間 栄 養 学 科		0（1）
子 ど も 学 科	（福）愛児会 （株）学研ホールディングス クラブン（株）	3（1）
国 際 教 養 学 科	（株）オーディーエル 総社市役所（6）	7（8）
総 合 生 活 学 科		0（5）
保 育 学 科		0（0）
情 報 ビ ジ ネ ス 学 科	（株）トマト銀行（2） SHOWA GOUNG（株）（株）スタッフサービス （株）コスモス薬品 水島信用金庫 明治安田生命保険相互会社 富士薬品グループ（株）ププレひまわり（2） （株）ヒラタ （株）AHB（株）松本コーポレーション 倉敷中央病院 おかやま信用金庫 （株）テイクアンドギブ・ニーズ （株）日本調剤 アイングループ （株）レディ薬局 （株）ザグザグ （株）システナ ピープルソフトウェア（株） システムエンタープライズ （株）トスコ OEC（株） 大黒天物産（株） クラブン（株） 倉敷ジャズストリート NPO teamAIR	29（6）
合 計		39（21）

5 就活サポーターズの仕事内容の充実

ガイダンス時の司会や受付及び「先輩からのメッセージ」の講師の協力を依頼し、昨年度以上に後輩指導をお願いする。

次の表の通り、司会やパネラー、アドバイザーとして、後輩のために自分の経験等を活かしたサポートをしていただいている。

○ 2023卒の就職ガイダンスに係るサポーター

年2回実施したが、ガイダンス参加人数も少なく、サポーター活躍の場面はなかった。

○ 2024卒の就職ガイダンスに係るサポーター

日付 時間帯	回数	内容	就活 サポーター 参加人数	就活サポーターの業務
5/11(水) 14:50～16:20	1	就職支援センター紹介他(大学のみ)	3	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 ビデオ撮影 写真撮影 出席カード等回収
5/18(水) 14:50～16:20	1	就職支援センター紹介他(短大のみ)	3	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 司会進行 ビデオ撮影 写真撮影 出席カード等回収
6/1(水) 14:50～16:20	2	インターンシップと就職情報サイトの利用について	1	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 写真撮影 出席カード等回収
7/13(水) 14:50～16:20	3	インターンシップと自己分析	3	インターンシップ事例発表 入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 司会進行 ビデオ撮影 写真撮影 出席カード等回収 イベント 参加体験発表
7/30(土) 13:30～16:00	臨時	オンラインインターンシップフェア	-	-
10/5(水) 14:50～16:20	4	身だしなみ講座	5	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 司会進行 写真撮影 スーツモデル 出席カード等回収
10/12(水) 14:50～16:20	5	メイクセミナー	1	メイクモデル
10/19(水) 14:50～16:20	6	履歴書・ES対策講座	3	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 司会進行 写真撮影 出席カード等回収
10/26(水) 14:50～16:20	7	面接対策講座	4	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 模擬面接役 写真撮影 出席カード等回収
11/16(水) 14:50～16:20	8	企業研究①	3	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 写真撮影 出席カード回収

日付 時間帯	回数	内容	就活 サポーター 参加人数	就活サポーターの業務
11/30(水) 14:50～16:20	9	先輩からのメッセージ	9	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 司会進行 写真撮影 パネラー 出席カード回収
12/7(水) 14:50～16:20	10	学内仕事研究&インターンシップフェア	4	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 司会進行 写真撮影 出席カード回収
1/11(水) 14:50～16:20	11	企業研究②	4	会場設営 入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 司会進行 写真撮影 出席カード回収 会場原状復帰
1/18(水) 14:50～16:20	12	求人票の見方がみるみる分かる！就活準備丸わかりセミナー	5	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 写真撮影 出席カード回収
2/8(水) 13:30～16:00	13	学内合同企業研究セミナー	5	会場設営 入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 写真撮影 出席カード回収 タイムインフォメーション
2/9(木) 13:30～16:00		学内合同企業研究セミナー	5	入場前アルコール消毒 指定座席への資料配付 写真撮影 出席カード回収 タイムインフォメーション 会場原状復帰

6 外部組織との連携推進

岡山公共職業安定所（おかやま新卒応援ハローワーク）との連携はもとより、就職情報会社、並びに日本私立大学協会、全国私立大学就職指導研究会、日本私立短期大学協会、岡山私立大学就職指導研究会等他団体と交流を密にする中で、各種の情報収集を行うとともに、その情報を学生に対してはもちろんのこと、就職支援委員の先生方にも共有する。

新卒応援ハローワークにおいては、11月当初から学内出張ハローワークを実施。

参加者一覧

	人間 栄養	子ども	国際 教養	小計	総合 生活	保育	情報 ビジネス	小計	合計
11月4日				0			2	2	2
11月18日		1		1	3			3	4
12月9日				0	1	1		2	2
12月16日				0	1		2	3	3
1月20日				0	1			1	1
1月27日		2		2			1	1	3

外部組織からの情報を就職支援委員会で提供

情報提供回	名 称	実施日
第4回	全国私立大学就職指導研究会中国・四国地区大会	R4. 7. 14 (木) ～15 (金)
	大学コンソーシアム岡山 令和4年度 第25回就職支援委員会	R4. 7. 21 (木)
第5回	日本私立大学協会中国・四国支部分科会	R4. 8. 24 (水)
	私立短期愛学就職担当者研修会	R4. 8. 26 (金)
第6回	令和4年度(第46回)就職部課長相当者研修会	R4. 11. 17 (木)
第8回	大学コンソーシアム岡山 令和4年度 第26回就職支援委員会	R5. 1. 27 (金)

②学生相談体制及び健康管理対策の充実等』

体調不良の学生については、各学科より逐一報告を受ける体制を整える等新型コロナウイルス感染症の予防に努め、学生の健康管理を万全の体制で行った。さらに、検温・消毒、体調管理を指示し3密回避に努めた。

学生の定期健康診断は、例年通り4月に実施し、受診率は99.9%であった。また、定期健康診断の事後措置として、有所見者に対して個別に健康指導を実施した。

学生相談については、臨床発達心理士と連携を図り学生の修学支援に努めた。

障がい学生修学支援については、合理的配慮を実施した学生が6名であった。卒業する学生以外の3名の学生については、令和5年度も引き続き合理的配慮を行う。大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援委員会」とも連携を密にし、今後一層の支援対策を整えていく。

学生間での集団感染や感染拡大を未然に防止するため、麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・水痘の予防接種証明書の提出を徹底し、免疫有無の状態を把握している。また、定期健康診断の結果をもとに健康教育にも取り組んでいる。

③学生生活及び学生支援に関わる施設設備の充実

・1日学生駐車場の許可を含めた学生駐車場の有効活用

現在、学生用に91台分の学生駐車場を設けているが、令和4年度の許可台数は76台であった。新型コロナウイルス感染症予防対策のため公共交通機関による通学を避け、自動車通学を申請する学生が増加した。また、臨時1日駐車場の許可台数は延べ892台であった。自動車通学の許可を受けた学生にはJAF及び岡山西警察署による交通安全講習会を前期と後期の2回義務づけ、交通事故防止に繋げている。

・JR庭瀬駅からの通学路の交通安全指導

本学学生の大学5割、短大6割がJR通学している現状から、新入生オリエンテーションにおいて通学路における交通安全指導を行うとともに、4月授業開始時及び秋の全国交通安全運動期間の9月に各1週間教員及び交通委員の学生が街頭交通安全指導を行った。

- ・ 学生食堂の食事内容やメニューの改善

学生食堂の業者に対し、学生のニーズにあった充実したメニュー作りを依頼し、徐々にではあるが学食利用者が増加している。学生食堂のメニューと売店の品揃えについて、業者と月に1度の話し合いの機会を設け改善に努めた。売店の商品の品揃えについて学生からの要望意見が多いことから、業者へ品揃えの充実を要請した。

- ・ 光風寮の設備・備品の更新や生活環境整備

(4) 図書館活動の充実

① 学生の積極的な学習のための支援

- ・ 例年行っている新入生オリエンテーションは学部・学科の協力で前期中に行うことができた。OPAC 検索や文献検索ガイダンスは、ゼミ等の申し込みにより随時行う用意をしている。利用マニュアルの更新は随時行っている。

昨年度から作成している『読書手帳』は、1年生全員に配布した。レポート作成に役立つよう、書誌事項を記録できるよう配慮している。

学生向けの文章作成講座を企画したが、授業との折り合いがつかず申し込みがなかった。授業に取り入れてもらうなど、教員の協力が必要である。

- ・ 図書館大賞は読書感想文部門・自由部門に各1篇の応募があった。

例年より応募者は少ないが、課題提出ではなく自主的な提出であることが特筆点である。応募者数を増やす手立てを考えることが課題である。

図書館の講座に学生の参加がみられた。特に中国学園図書館えほん講座「図書館でクリスマス2022」ではハンドベル演奏や寸劇の発表、子ども向けの工作の指導など、日頃の学習成果が発揮できた。

- ・ 図書館ゲート横の展示書架により、新着図書や学生選書図書がより目に留まりやすくなった。学生サポーターによる展示も行っている。テーマや展示時期は引き続き課題である。

② 大学の知的財産の積極的活用

- ・ 学生が資料を探しやすいよう、開架書架の整理・図書の移動を行っている。

- ・ 図書館システム未登録の図書館資料(図書・視聴覚資料)の入力を引き続き進めている。

また、数年来入力作業を続けている各大学紀要のコンテンツの入力も行っている。

- ・ 『中国学園紀要』第21号と『Chugokugakuen journal』Vol.21は12月にリポジトリに公開した。

③ 資産の維持管理の強化

- ・ コンピュータ未入力の資料の整理を行っている。重複資料、痛みのひどい図書資料、内容の古い視聴覚資料は廃棄・除籍した。

- ・ 学生サポーターや学生アルバイトにはデータの入力、返却資料の配架などで力になってもらった。一方、定期的な勤務が難しかったためか初歩的なミスが散見されたので、指導は引き続き行い図書館管理の一翼を担う人材を育成する。

④ 地域への貢献

- ・ 今年度は学外者へ年度初めから開放している。本学資料の貸し出しのほか、岡山県横断検索利用によるインターネット予約の受け渡し、岡山県立図書館への相互返却も継続している。

連携高等学校から高校生の利用についての打診があった。高校生以上の利用を可としているので、その旨担当の先生にはお伝えしたが、今年度は利用がなかった。

- ・ 地域の小学校への読書感想文コンクールの募集は今年度も行い、99篇の応募があった。新型コロナウイルス感染症対策や小学校の行事の都合により表彰式は本学では行わず、小学校で執り行っていた。

- ・ 地域の中学生の職場体験を受け入れる予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、3名の中学生による職場インタビューという形になった。

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、学外者も参加できる講座を表のように行った。

令和4年度開催講座

講 座 名	学外 参加者数
中国学園図書館講座 「高齢者の動向を考える～社会保障と税の一体改革を中心に～」	12
図書館 de プチ講座第22回 「ハラスメントの傾向と対策」	1
中国学園図書館公開講座 「新聞のプロに学ぶ〈わかりやすい文章を書くコツ〉」	12
中国学園図書館えほん講座 No. 26 「図書館でクリスマス 2022」	15
夏休み小学生講座 in 中国学園図書館 「いきもの新聞作り」(2022)	36
「介護・福祉職員のためのスキルアップ講座」①～③	(延べ)82
「介護に+いきいき実践～新聞活用のワザ～」①～③	(延べ)85

(5) グローバル化の推進

令和4年度も残念ながら新型コロナウイルス感染症の為に十分な活動ができなかった。実施状況は下記のとおりである。

- ①学生の留学促進のために提携している EF 社（エデュケーションファースト社）による留学セミナーは6月と2月に実施し、多くの学生が参加した。
- ②七夕フェスティバルは新型コロナウイルス感染症の影響の中で小規模ながら実施した。
- ③英文俳句コンテストは8月から9月に実施したが、応募者がなく来年度見直しをする。
- ④オンライン等による海外の大学との交流を推進しており、提携先のホンバン国際大学、高苑科技大学だけでなく、ポーランドの大学ともオンライン交流を行っている。
- ⑤ホンバン国際大学日本学科教員のオンラインによる特別講座を実施した。
- ⑥ホンバン国際大学には12月一名の学生をインターンシップで派遣することができた。
- ⑦ハロウィーンのイベントは新型コロナウイルス感染症のために中止した。
- ⑧英語の漫画スクリプトコンテストも応募者がなく来年度見直しをする。
- ⑨3月に韓国の国立大学である公州大学校との提携ができた。

(6) ICT 化の推進

情報処理センター及び2020年度に設置した情報教育センターを中心に ICT 化への対応を進めてきたところであり、2022年度はさらに充実を図った。

- ・新型コロナウイルス感染症への対応として、2020年度に整備した情報機器や通信環境をもとに2021年度は遠隔授業がスムーズに行える環境が整えられたので、2022年度はその活用を促進する。
- ・義務教育の段階から始まるプログラミング教育への対応を進める。
- ・ICT環境を基盤とした先端技術・教育ビッグデータの活用を進める。

以上の推進計画に基づいて、概ね計画を推進することができた。特に、学生の基本的な情報リテラシーや情報モラル教育を推進するための具体的な教材開発やプログラミング教育推進のための教材開発に取り組み、特にプログラミング教育を推進するための新しいプログラミング教材を開発した。次年度は、この教材の授業での活用を計画している。また、オンラインによる情報発信ブースの企画・開発に取り組み、次年度の本格運用に向けて準備を進めている。

(7) 地域貢献への取り組みの推進

① 地方自治体、地元産業界との連携の推進

1) 包括的な連携協定の締結

- ア 4月5日 おかやま観光コンベンション協会
- イ 4月26日 ナカシマホールディングス株式会社
- ウ 5月20日 株式会社トミヤコーポレーション
- エ 7月21日 久米南町
- オ 1月13日 アイサワ工業株式会社

カ 3月6日 岡山商工会

2) 協定に基づく事業の推進

ア おかやま観光コンベンション協会との連携により、YouTube において多言語で岡山後樂園を PR。(国際教養学科佐々木ゼミ＝岡山市学生イノベーションチャレンジ推進事業補助金及び同事業のグランプリを獲得)

イ 久米南町下鞆地区「楽じゃ！もむら暮らし」との連携（国際教養学科佐々木ゼミ＝岡山県地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業補助金を獲得）

② 大学コンソーシアム岡山の事業、吉備・陵南学区のイベント等への積極的参画

1) 大学コンソーシアム岡山の事業への参画

・令和4年度「吉備創生カレッジ」への科目提供

「笑顔学と健康」(4/15)総合生活学科教授 韓在都 【20 名】

「ネットビジネスの経営戦略」(5/14)情報ビジネス学科教授 宋娘沃 【11 名】

「睡眠はとっても大事」(10/20)人間栄養学科教授 井之川仁 【24 名】

・「日ようび子ども大学」(地域貢献委員:子ども学科中田先生担当)

・「エコナイト」(地域貢献委員:子ども学科中田先生担当)

2) 吉備・陵南学区のイベント等への参画

・「木堂ふるさとまつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主催者判断により、中止された。

・11月6日開催の「第18回吉備・陵南まちかど博物館」については、本学も後援し、実行委員会へ担当職員が参加した。

③ 令和4年度私立大学等改革総合支援事業への採択

令和3年度から4年度前期にかけての地域貢献への取組みにより、文部科学省の補助事業「令和4年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ3:地域社会の発展への貢献」へ法人として申請したところ、中国学園大学分が採択された。

(8) 教職員の意識改革と教育・研究方法の改善

中国学園大学・中国短期大学の教学 IR に関する実施状況を調査し、収集したデータを分析・可視化した。

分析した情報を全学の各部局代表で構成された IR センター会議を通して学内共有し、各学部学科、事務部局の教学 IR の自己検証と教育改善に役立てるとともに、幹部会、教授会への報告を通して大学執行部へ学内 IR 情報の現状と分析結果を提供した。

令和4年度の調査業務内容は以下の通りである。

○教学 IR 項目（69細目：カリキュラム、学びの支援、学修評価、学生生活支援、進路・就職支援、国際化、連携活動、広報活動、特色ある取り組み等）に関する各学部、事務局での実施状況の聞き取り調査と分析。

○入学志願者、合格率、辞退率、定員充足率、退学率、留年率等の学生確保に関する経年変化のデータ分析。

○退学者、休学者の経年推移とその要因分析。

○GPA 分析、授業評価アンケートと学修成果の分析。

○国家試験（管理栄養士）合格率の経年変化の調査分析。

○各種連携活動の実施状況調査（大学間、高大連携、地域連携、産学官連携等）。

○科研費等外部資金獲得状況の調査分析。

また、授業内容・方法の改善や職員の資質向上のため、次のことを実施した。

FD研修会の実施

教員を対象としたFD研修会を開催し、授業内容・方法の改善に努めた。

第1回「授業改善の取り組みについて」令和4年7月27日

第2回「学生の学修時間・学修行動を踏まえた教育活動の見直しについて」
令和4年9月5日

第3回「教務システムの運用と方法について」令和5年3月7日（SD と合同）

SD研修会の実施

教職員全員を対象としたSD研修会を4回実施し、教職員の資質向上に努めた。

第1回 社会保険労務士による労働法規に関する研修として

【働く人達のための法制度】＜労働時間制度編＞ 令和4年8月31日 実施

第2回 防災に関する研修として

【学校法人における災害対応の留意点】 令和4年9月12日 実施

第3回 教務システムの運用と方法について 令和5年3月7日（FDと合同）

(9) 自己点検・評価及び認証評価の取組みの推進

令和4年度は、短期大学が（財）短期大学基準協会の3巡目の評価を受け、令和5年3月10日に適格認定書を交付されたところである。

大学は、平成28年度に（財）日本高等教育評価機構の2巡目の受審を受け、平成29年3月7日付けで適格認定書の交付を受けたところであるが、令和5年度に3順目の認証評価を受ける予定であり、学園全体での認証評価に向けての準備を進めてきた。また令和4年度の自己点検・評価を適正に行ったところである。

(10) 経営基盤の強化

①円滑な管理運営

ア. ガバナンスの確立

私立学校の経営体制の安定と財政基盤の充実には、ガバナンスの確立が必要である。そのため、2020年度に設置したIRセンターで各種情報の収集・分析を行うとともに理事会の法人業務の最終意思決定機関としての位置付けや学内理事による常任理事会の設置により、円滑な大学運営を図った。

また、ガバナンスの基本となる各種諸規程について弁護士や社会保険労務士等、専門家のコンプライアンスチェックを踏まえた上で進めた。常任理事会議の充実等、内部監査組織の機能強化とコンプライアンスに努めた。

イ. リスク管理体制の構築

危機管理マニュアルに基づき危機管理と危機対策を推進するとともにコンプライアンスの強化を図った。

- ・各種危機への迅速で的確な対応の推進
- ・有人警備システムの効率的運用
- ・防犯カメラの運用
- ・法改正に伴う防災組織（消防組織、火災訓練等）の確立
- ・学生の避難訓練の実施

例年9月に実施している避難訓練はコロナ禍のため2月15日（水）に規模を縮小して実施した。

- ・ネットワーク環境とセキュリティ管理のさらなる充実 等

②健全な財政運営

ア. 財政基盤の強化

激変する環境に対応し、将来に向けて安定した財務基盤を維持していくため、諸課題に具体的に対処し、方向性を明確にしたうえで、今後取り組むべき事業に経営資源を集中する。

中期計画上の施設設備拡充・整備事業計画に必要な資金を確保するため、中長期的収支差額の見通し、単年度収支差額の状況を精査し、早急に収支構造の改善を図る。

経常収支の根幹である「学納金」と「人件費」のバランスに留意し、人員配置の見直しと共に業務の効率化を図り、中期計画に沿い、適正と判断される比率の確保を目指す。

人件費率 (人件費／経常収入)	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
	70.1%	71.5%	69.9%	71.2%	70.8%

- ・教育研究の充実のため、教育の質の向上、研究の活性化など、より特色のある大学づくりに向けて、教学の理念に沿い、学生の主体性を引き出し、地域社会に繋げる事業への支出とする。

教育研究経費比率 (教育研究経費／経常収入)	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
	38.2%	37.3%	38.3%	39.8%	39.8%

- ・管理経費については、先例にとらわれず、支出の内容について費用対効果、内容の妥当性を十分検討し、不急の支出を抑制すると共に今後の環境変化に柔軟に対応するため、組織の変革に資する支出とする。

管理経費率 (管理経費／経常収入)	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
	9.0%	7.4%	6.7%	6.8%	6.1%

イ. 施設設備及び各種システムの整備充実

本館等建築から経過年数の長い施設の調査を行い、改修計画を策定する。

また、質の高い教育研究の展開を可能にするために、施設設備の整備、各種システムの構築、更新・充実を引続き進める。

令和 4 年度は、次の事業を実施した。

- ・光風寮監視カメラシステム設置工事（令和 4 年 4 月完了）
- ・マルチメディア演習室映像設備更新工事（令和 4 年 6 月完了）
- ・こども園監視カメラシステム設置工事（令和 4 年 7 月完了）
- ・1 号館 1201AB 映像設備更新工事（令和 4 年 6 月完了）
- ・非常用放送設備更新工事（令和 5 年 3 月完了）
- ・出退勤管理システム導入（令和 5 年 3 月完了）
- ・新教務システム導入（令和 5 年 3 月完了）

ウ. E C O 対策への取り組み

本学の E C O 対策への取り組みについては、従前から、建物のトップライト方式や冷暖房設備を吸収式冷暖房設備から G H P（ガスヒートポンプ）冷暖房設備への切替え等を実施しているところである。

今年度は、E C O 対策の周知徹底を図るとともに次の取り組みを実施した。

- ・照明器具を L E D 照明に更新するための年次計画の策定

エ. 職員の給与

経常収支の悪化を踏まえ、昇給停止等を含め人件費の削減を検討しているが、令和 4 年度は、職員の給与改定は行わなかった。

(11) 情報公開の推進

私立学校法等により情報公開が義務付けられている情報以外の情報についてもインターネットを利用して積極的に公開するとともに、各学部・学科等からも LINE やインスタグラムなどの SNS を利用して情報発信を積極的に進めた。

(2) 研究教育の概要

①教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	課程等
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	
	子ども学部	子ども学科	
	国際教養学部	国際教養学科	
	現代生活学研究科		人間栄養学専攻
	子ども学研究科		子ども学専攻
中国短期大学	総合生活学科		
	保育学科		
	情報ビジネス学科		

②教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	教員数
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	21人
	子ども学部	子ども学科	15人
	国際教養学部	国際教養学科	11人
	現代生活学研究科	(人間栄養学専攻)	(基礎学部を含む)
	子ども学研究科	(子ども学専攻)	(基礎学部を含む)
中国短期大学	総合生活学科		9人
	保育学科		10人
	情報ビジネス学科		8人
【教員の保有学位または職務上の実績等】 ※ 別冊 資料			

③学生に関する情報

大学等	学部・研究科等	入学定員	収容定員
中国学園大学	現代生活学部 人間栄養学科	80 3年次編入4	328
	子ども学部 子ども学科	100 3年次編入5	380
	国際教養学部 国際教養学科	50 3年次編入5	240
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	5	10
	子ども学研究科 子ども学専攻	5	10
	小 計	240	968
中国短期大学	総合生活学科	85	170
	保育学科	120	240
	情報ビジネス学科	80	160
	小 計	285	570
合 計		525	1,538

注（ ）は内数で編・転入者を含む

【大学・短大：入学に関する基本的な方針】

- ・現代生活学部 人間栄養学科：中国学園大学学則第1条の2の第1号による
- ・子ども学部 子ども学科：中国学園大学学則第1条の2の第2号による
- ・国際教養学部 国際教養学科：中国学園大学学則第1条の2の第3号による
- ・現代生活学研究科 人間栄養学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第1号による
- ・子ども学研究科 子ども学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第2号による
- ・総合生活学科：中国短期大学学則第1条の2の第1号による
- ・保育学科：中国短期大学学則第1条の2の第2号による
- ・情報ビジネス学科：中国短期大学学則第1条の2の第3号による

④学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科等	所在地	主な交通手段
中国学園大学	庭瀬 キャンパス	現代生活学部 人間栄養学科 子ども学部 子ども学科 国際教養学部 国際教養学科 現代生活学研究科 人間栄養学専攻 子ども学研究科 子ども学専攻	岡山市北区庭瀬 83番地	山陽本線庭瀬駅 下車 徒歩15分
中国短期大学		総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科		

⑤学生納付金に関する情報

学部・学科		授業料		入学料		その他の費用徴収	
		金 額	納入時期	金 額	納入時期	金 額	納入時期
中国 学 園 大 学	現代生活学部 人間栄養学科	50万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	50万円	4月20日 10月20日
	子ども学部 子ども学科	50万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	40万円	4月20日 10月20日
	国際教養学部 国際教養学科	59万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	40万円	4月20日 10月20日
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	40万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	30万円	4月20日 10月20日
	子ども学研究科 子ども学専攻	40万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	20万円	4月20日 10月20日
中国 短 期 大 学	総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科	41万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	38万円	4月20日 10月20日

⑥学生支援と奨学金に関する情報

〈学生支援〉

区 分	組 織 名	機 能
就職支援	就職支援センター	Face to Face の支援（一人ひとりを大切に した面談） 迅速な情報発信（求人・就職情報を一人ひと りに配信） 豊富な視聴覚教材（就職活動の基本を DVD 教 材で学習） 企業との信頼関係（ガイダンス、インターン シップ、実習等による） 卒業後のフォロー（卒業後の再就職の相談）
生活支援 （住居、アルバイト等）	学生課	各種情報を掲示することで学生に随時紹介 している
保健・衛生	保健室	専門職員を配置し、健康に関する相談、けが や病気の応急措置等に対応している 定期健康診断の実施及び健康診断証明書の 発行
メンタルヘルス	学生相談室	専門職員がインテーカーとして対人関係・学 業・進路・心の健康等の相談に応じている

〈奨学金〉

種 類	要 件	申 込 方 法
日本学生支援機構 給付奨学金 貸付奨学金 （第1種） （第2種）	〔給付〕 住民税非課税世帯及びそれに準 ずる世帯で学ぶ意欲がある学生 〔貸付〕 経済的理由により修学が困難で、 優れた学生であると認められる 人	本人の願い出により選考し、日 本学生支援機構へ学生課を経由 して推薦
地方公共団体による奨 学金 ・岡山市奨学生 ・倉敷市奨学生	それぞれ市内居住者またはその 子ども 人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由により修学困難 他の奨学金を受けていないこと 等	本人が直接該当市教育委員会事 務局へ申請 担任による推薦調書が必要
ノートルダム育英財団	岡山県内の大学・短大に在学する 学生（1年・院博士課程は除く） 人物、学業ともに優秀、将来社会 貢献を期待できる者	本人の願い出により、学生課を 経由して推薦 指導教官の推薦書が必要
あしなが育英会	病気や災害、自死（自殺）などで 親を亡くした子どもや、障がいな どで親が十分に働けない家庭の 子ども	本人の願い出により、学生課を 経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要
交通遺児育英会	保護者等が交通事故で死亡した り、重い後遺障害のために働け ず、経済的に修学困難な学生	本人の願い出により、学生課を 経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要
公益財団法人 小松奨学財団	人物・学業ともに優秀で経済的援 助が必要と認められる者	本人の願い出により、学生課を 経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要

〈特待生・優待生等〉

種 類	減 免 額 等	対 象	対象学生
学業成績特待生制度 (新入生)	A : 入学金全学及び授業料(1年間)の全額免除 B : 入学金全学及び授業料(1年間)の半額免除	一般選抜Ⅰ期(A日程・B日程)、一般選抜(共通テスト利用Ⅰ期)入学試験において特に成績優秀であった者	大学, 短大 1年次生
学業成績特待生制度 (在学生)	10万円の給付	学業、人物ともに優れた者	大学2・3・4年次生 短大2年次生
修学支援制度	①授業料(1年間)の半額免除 ②10万円以内の給付	①経済的に修学が困難になった者で成績良好な者 ②収入激減等により生活困窮者となった者	全学年
卒業生の子の入学優待制度	入学金の免除	本学卒業生を保護者とする新入生	1年次生
兄弟姉妹・在学生支援制度	在学期間の弟妹の授業料1/3相当額の免除	本学に兄弟姉妹が同時期に在学する場合、その在学期間の弟又は妹	全学年
沖縄県等遠隔地学生支援制度	入学金の免除及び寮費、管理費の半額免除	沖縄県等からの入学者	全学年
学校推薦型選抜(指定校—連携協定校枠)入学生支援制度	入学金の免除	学校推薦型選抜(指定校—連携協定校枠)入学者	大学, 短大 1年次生

(3) こども園の概要

①名称等

名 称	形 態	所 在 地	主な交通手段
中国学園大学・ 中国短期大学附 属たねのくにこ ども園	幼保連携型認定こども園	岡山市北区中撫川 351番地	JR 山陽本線庭瀬駅 (約 2.3Km) 岡電・両備・下電バス 撫川停留所(約 1Km)

②園児の状況

1) 定員：200人

1号認定			2号認定			3号認定		
3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
15人	15人	15人	25人	35人	35人	12人	24人	24人

2) 在籍者数：192人

(令和4年5月1日現在)

1号認定			2号認定			3号認定		
3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
15人	13人	12人	25人	33人	34人	12人	24人	24人

③教育・保育時間

1号認定	2・3号認定
月曜日～金曜日 休業日：土曜日・日曜日・学年始休業日・夏 季休業日・冬季休業日・学年末休業日・ 国民の祝日に関する法律に規定する休 日	月曜日～土曜日 休園日：日曜日・年末年始・国民の祝日に関 する法律に規定する休日
【教育時間】 9:00～14:00	【教育・保育時間】 〈標準時間認定〉 7:00～18:00 〈短時間認定〉 8:30～16:30
○一時預かり	○延長保育 ○休日保育 ○一時預かり

(4)財務の概要

7. 財 務 の 概 要

(1) 資金収支の推移 (法人全体)

資金収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、資金の顛末を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

資 金 収 支 計 算 書 の 状 況

(単位:千円)

収入の部					
科 目	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	1,101,841	1,148,870	1,135,319	1,064,486	1,006,582
手数料収入	16,670	16,025	13,942	13,300	12,264
寄付金収入	7,608	6,490	5,571	12,890	21,860
補助金収入	455,561	296,232	392,463	365,506	383,248
国庫補助金収入	134,943	128,675	189,569	170,835	179,435
地方公共団体補助金収入	320,618	167,557	202,893	194,672	203,814
資産売却収入	1,400,085	300,000	949,489	881,971	700,005
付随事業・収益事業収入	17,790	11,494	13,433	10,822	8,525
受取利息・配当金収入	38,799	26,619	21,683	32,015	32,574
雑収入	44,987	39,945	62,316	32,014	61,807
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	297,485	291,157	232,143	231,250	212,805
その他の収入	344,534	666,641	403,570	390,691	385,390
資金収入調整勘定	△ 632,761	△ 345,721	△ 370,653	△ 261,511	△ 293,287
前年度繰越支払資金	999,411	827,807	984,014	832,550	1,067,535
収入の部合計	4,092,009	3,285,561	3,843,290	3,605,984	3,599,307
支出の部					
科 目	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	953,407	1,103,117	1,136,952	1,089,390	1,088,337
教育研究経費支出	294,100	305,447	345,454	352,243	363,538
管理経費支出	118,480	101,580	98,531	93,137	82,186
借入金等利息支出	4,383	3,799	3,214	2,630	2,046
借入金等返済支出	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
施設関係支出	1,080,789	10,731	3,949	7,796	605
設備関係支出	98,766	37,852	75,770	41,775	65,797
資産運用支出	400,000	400,000	952,000	600,000	100,000
その他の支出	336,439	353,164	412,872	359,165	398,748
資金支出調整勘定	△ 52,922	△ 44,903	△ 48,762	△ 38,446	△ 56,017
翌年度繰越支払資金	827,807	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307
支出の部合計	4,092,009	3,285,561	3,843,290	3,605,984	3,599,307

*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(2) 活動ごとの資金収支の推移（法人全体）

活動区分資金収支計算書は、学校法人の活動ごとの資金の流れを明らかにすることを目的として作成される計算書です。

具体的には、資金収支計算書の決算額を①教育活動、②施設整備等活動、③その他の活動に区分したものです。

法人名：学校法人 中国学園

活動区分資金収支計算書の状況

(単位:千円)

教育活動による資金収支	科 目		平 成 30 年 度	令 和 1 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
	収入	学生生徒等納付金収入	1,101,841	1,148,870	1,135,319	1,064,486	1,006,582
		手数料収入	16,670	16,025	13,942	13,300	12,264
		経常費等補助金収入	134,303	290,938	375,681	365,433	383,248
		教育活動資金収入計	1,318,199	1,508,763	1,601,261	1,493,945	1,489,286
	支出	人件費支出	953,407	1,103,117	1,136,952	1,089,390	1,088,337
		教育研究経費支出	294,100	305,447	345,454	352,243	363,538
		調整勘定等	33,294	△ 17,165	△ 94,695	34,256	△ 43,068
施設整備等活動による資金収支	科 目		平 成 30 年 度	令 和 1 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
	収入	施設設備補助金収入	321,258	5,294	16,782	73	0
		施設整備等活動資金収入計	326,343	10,294	21,804	5,073	5,005
	支出	施設関係支出	1,080,789	10,731	3,949	7,796	605
		設備関係支出	98,766	37,852	75,770	41,775	65,797
		施設整備等活動資金支出計	1,179,555	48,583	79,719	49,571	66,402
	差引	△ 853,212	△ 38,289	△ 57,915	△ 44,498	△ 61,397	
	調整勘定等	△ 299,984	315,670	△ 8,876	3,737	10,616	
	施設整備等活動資金収支差額	△ 1,153,196	277,381	△ 66,792	△ 40,761	△ 50,781	
	その他の活動による資金収支	科 目		平 成 30 年 度	令 和 1 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度
収入		借入金等収入	0	0	0	0	0
		小計	1,691,670	616,509	1,307,514	1,194,854	1,057,869
		受取利息・配当金収入	38,799	26,619	21,683	32,015	32,574
		その他の活動資金収入計	1,730,468	643,128	1,329,197	1,226,870	1,090,443
支出		借入金等返済支出	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
		小計	729,999	741,956	1,336,286	941,924	494,001
		借入金等利息支出	4,383	3,799	3,214	2,630	2,046
		調整勘定等	0	0	0	0	0
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 171,604	156,207	△ 151,465	234,986	455,772	
前年度繰越支払資金		999,411	827,807	984,014	832,550	1,067,535	
翌年度繰越支払資金		827,807	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307	

* 主要科目のみ表示している場合、各計が一致していない場合があります。また科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(3) 事業活動収支の推移（法人全体）

事業活動収支計算書は当該会計年度（４月１日から翌年３月３１日）の事業活動収支の内容を明確にし、基本金へ組み入れる額を控除した事業活動収支の均衡を表すものです。

法人名:学校法人 中国学園

事業活動収支計算書の状況

(単位:千円)

	科 目	平成 30 年 度	令和 1 年 度	令和 2 年 度	令和 3 年 度	令和 4 年 度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,101,841	1,148,870	1,135,319	1,064,486	1,006,582
	手数料	16,670	16,025	13,942	13,300	12,264
	寄付金	2,608	1,490	3,196	7,890	16,860
	経常費等補助金	134,303	290,938	375,681	365,433	383,248
	付随事業収入	17,790	11,494	13,433	10,822	8,525
	雑収入	44,987	39,945	62,316	32,014	61,807
	教育活動収入計	1,318,199	1,508,763	1,603,886	1,493,945	1,489,286
	事業活動支出の部					
	人件費	950,683	1,098,099	1,136,198	1,086,368	1,077,922
	教育研究経費	518,155	572,261	622,016	607,128	605,888
	管理経費	122,157	112,971	109,632	103,721	92,364
	徴収不能額等	2,453	2,809	1,275	2,164	983
教育活動外収支	教育活動支出計	1,593,447	1,786,140	1,869,121	1,799,381	1,777,156
	教育活動収支差額	△ 275,248	△ 277,378	△ 265,235	△ 305,436	△ 287,870
	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	38,847	26,668	21,683	32,015	32,574
	教育活動外収入計	38,847	26,668	21,683	32,015	32,574
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	4,383	3,799	3,214	2,630	2,046
	教育活動外支出計	4,383	3,799	3,214	2,630	2,046
	教育活動外収支差額	34,464	22,869	18,469	29,385	30,528
	経 常 収 支 差 額	△ 240,784	△ 254,509	△ 246,767	△ 276,051	△ 257,342
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	77	0	240	0	0
	その他の特別収入	326,523	10,505	23,419	6,158	6,023
	特別収入計	326,601	10,505	23,659	6,158	6,023
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	14,404	311	11,216	20,305	7,796
	その他の特別支出	34,493	28,000	29,565	0	0
	特別支出計	48,897	28,311	40,781	20,305	7,796
	特別収支差額	277,703	△ 17,806	△ 17,122	△ 14,147	△ 1,773
	基本金組入前当年度収支差額	36,919	△ 272,315	△ 263,889	△ 290,197	△ 259,115
	基本金組入額合計	△ 1,158,359	△ 47,742	△ 80,770	△ 102,009	△ 73,577
	当年度収支差額	△ 1,121,440	△ 320,057	△ 344,659	△ 392,207	△ 332,693
	前年度繰越収支差額	△ 1,643,920	△ 2,765,360	△ 3,085,418	△ 3,430,077	△ 3,822,283
(参考)	基本金取崩額	0	0	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△ 2,765,360	△ 3,085,418	△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976
	事業活動収入計	1,683,647	1,545,935	1,649,228	1,532,118	1,527,882
	事業活動支出計	1,646,727	1,818,250	1,913,117	1,822,315	1,786,998

*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(4) 貸借対照表(資産の状況)の推移(法人全体)

貸借対照表は期末(会計年度末:3月31日)における資産・負債・純資産(基本金および繰越収支差額)を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

法人名: 学校法人 中国学園

貸 借 対 照 表 の 状 況

(単位:千円)

資 産 の 部					
科 目	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固 定 資 産	8,147,447	8,017,754	7,365,487	7,189,007	6,495,613
有形固定資産	7,043,984	6,815,039	6,601,428	6,385,116	6,192,262
土 地	1,314,646	1,314,646	1,314,646	1,314,646	1,314,646
建 物	4,831,083	4,649,338	4,454,186	4,278,211	4,102,350
構 築 物	275,857	249,199	225,203	205,511	183,395
教育研究用機器備品	215,597	191,005	204,439	182,639	185,590
その他の機器備品	11,922	11,699	9,779	9,526	15,988
図 書	394,848	399,152	393,176	394,585	390,293
車 両	32	0	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0	0	0
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	1,103,462	1,202,715	764,058	803,891	303,352
電話加入権	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102
無形固定資産	0	0	0	0	0
有 価 証 券	1,099,861	1,199,910	752,150	802,150	302,150
施設設備拡充引当特定資産	0	0	0	0	0
長期未収入金	0	0	0	0	0
長期前払金	2,499	1,703	10,807	639	100
流 動 資 産	1,193,054	1,036,494	1,372,172	1,204,590	1,585,187
現 金 預 金	827,807	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307
未 収 入 金	350,132	45,427	78,124	27,521	61,054
有 価 証 券	0	0	450,000	100,000	0
立 替 金	8,444	6,735	0	0	0
前 払 金	6,671	318	11,498	9,534	825
資産の部合計	9,340,501	9,054,249	8,737,658	8,393,597	8,080,800

(単位:千円)

負 債 の 部					
科 目	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固 定 負 債	559,638	552,124	550,762	508,758	477,137
長期借入金	184,560	153,800	123,040	92,280	61,520
退職給与引当金	363,187	386,169	414,980	411,958	401,544
長期未払金	11,891	12,155	12,742	4,520	14,074
流 動 負 債	405,961	399,538	348,198	336,339	314,278
短期借入金	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
未 払 金	41,668	37,968	47,857	35,171	36,928
前 受 金	297,485	291,157	232,143	231,250	212,805
預 り 金	36,049	39,653	37,438	39,158	33,785
負債の部合計	965,599	951,662	898,961	845,097	791,416
純 資 産 の 部					
科 目	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基 本 金	11,140,262	11,188,004	11,268,774	11,370,784	11,444,361
第1号基本金	11,036,262	11,084,004	11,164,774	11,243,784	11,317,361
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	104,000	104,000	104,000	127,000	127,000
繰越収支差額	△ 2,765,360	△ 3,085,418	△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976
純資産の部合計	8,374,901	8,102,586	7,838,698	7,548,500	7,289,385
負債及び純資産の部合計	9,340,501	9,054,249	8,737,658	8,393,597	8,080,800

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

（５） 主な財務比率の推移(法人全体)

◆ 事業活動収支計算書関係比率

	比 率	計算式	比率の意味	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する人件費の占める割合を示しています。この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となります。	70.1%	71.5%	69.9%	71.2%	70.8%
2	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する教育研究経費の占める割合を示しています。この比率は収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましいとされています。	38.2%	37.3%	38.3%	39.8%	39.8%
3	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する管理経費の占める割合を示しています。ある程度の支出は止むを得ないものの、比率は低い方が望ましいとされています。	9.0%	7.4%	6.7%	6.8%	6.1%
4	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	経常収入から経常支出を差し引いた経常収支差額の経常収入に対する割合で、経常的な収支バランスを表す比率です。	△17.7%	△16.6%	△15.2%	△18.1%	△16.9%
5	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額の教育活動収入に対する割合で、本業である教育活動の収支バランスを示す比率です。	△20.9%	△18.4%	△16.5%	△20.4%	△19.3%

＊ 「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

◆ 活動区分資金収支計算書関係比率

	比 率	計算式	比率の意味	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率です。	△1.1%	△1.2%	△4.6%	△0.4%	△5.9%

＊ 教育活動資金収入計＝学生生徒等納付金収入＋手数料収入＋特別寄付金収入＋一般寄付金収入＋経常費等補助金収入＋付随事業収入＋雑収入

教育活動資金支出計＝人件費支出＋教育研究経費支出＋管理経費支出

教育活動資金収支差額＝教育活動資金収入計－教育活動資金支出計＋教育活動調整勘定等

◆ 貸借対照表関係比率

	比 率	計算式	比率の意味	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	一年以内に支出しなければならない流動負債に対して、現金預金など現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期の支払能力を判断する重要な指標です。	293.9%	259.4%	394.1%	358.1%	504.4%
2	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	施設設備の更新や教職員の退職金資金等、将来の確定的債務等について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを表す比率です。この比率は高い方が望ましいとされています。	42.0%	44.9%	39.5%	36.4%	32.4%

＊ 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券(固定・流動)

要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金